

本裁男綿入羽織襠の標付け方



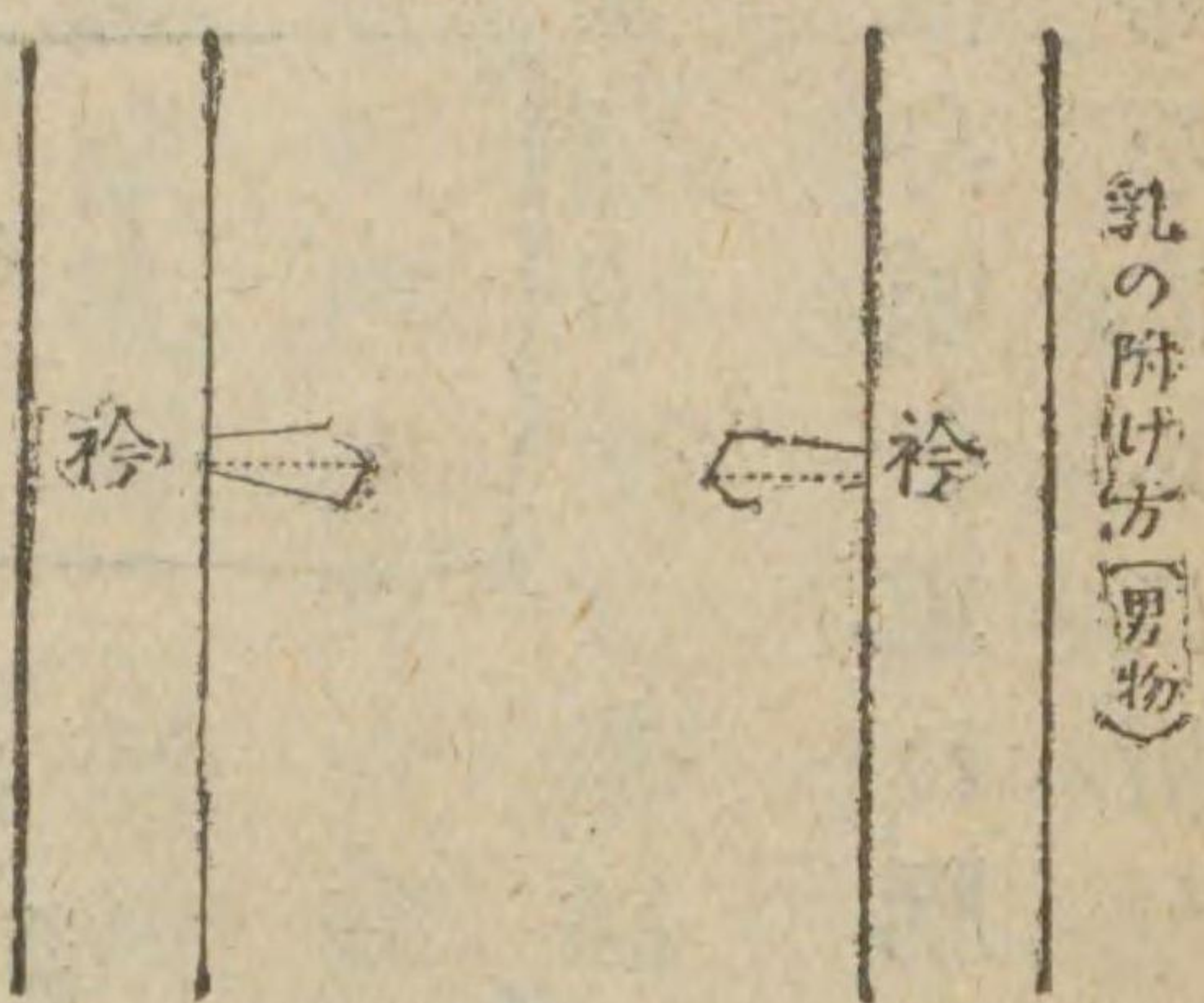
第三 本裁男綿入羽織標付け方縫ひ方順序

一、標付け方 概ね本裁女綿入羽織(身八つ口を除く)に同じ。但し、襠の標付け方は、上圖の如く、襠の上幅を一分とし、下幅の中央より後方へ、其の一分を計りて、前後襠付けの標を附くべし。

二、縫ひ方 袖附の外は總て本裁女綿入羽織に同じ。袖附 表の袖山と肩山との幅標を合せ、丈を揃へて待針を打ち、袖にて身頃を挟み、袖附標の所を二本の絲にて極めて浅く抄ひ、四つ留めになし、一本を切りて、其の端を他の二本に撚り合せ置き、残れる一本にて、袖を見て縫ひ、附の始め終りと袖山とは一針返し、其の他は小針に付け廻し、被せを浅くして、袖の方へ折り、引き返し、裏袖も表袖と同じく標を合せ、身頃にて袖を挟み、袖附留めをなし、付け終りて、身頃の方へ折るなり。

〔注意〕 乳の向きは、上圖に示せるが如く、女物とは反對なり。

男羽織乳の付け方



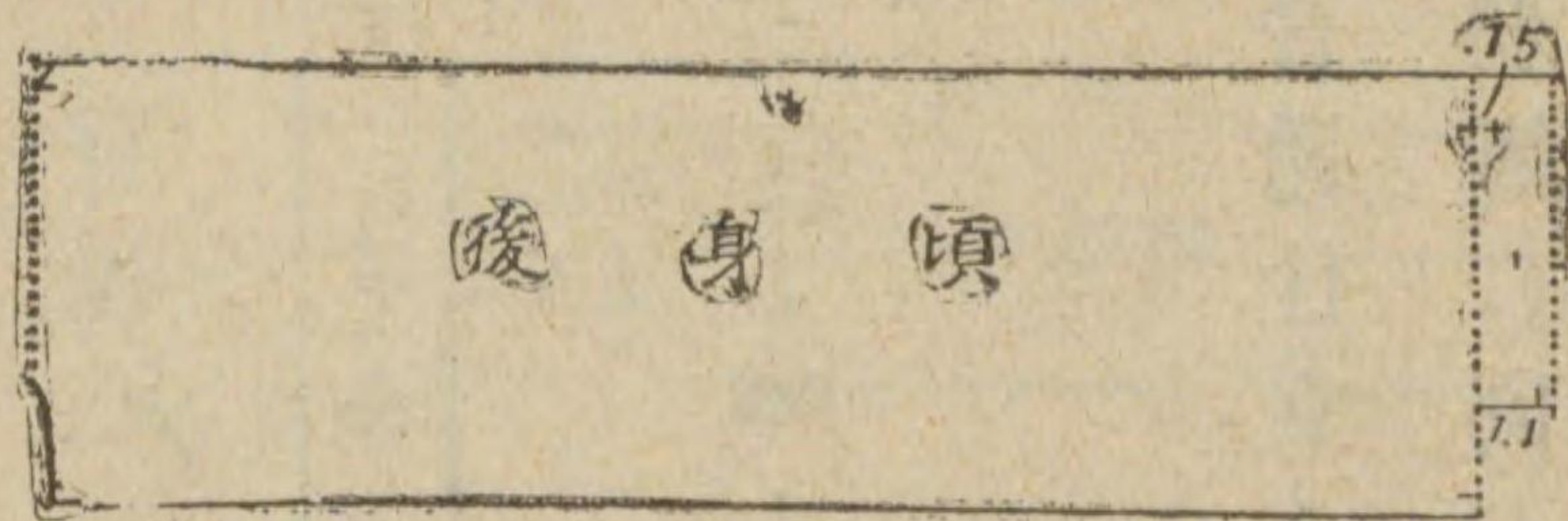
第十九章 本裁裕羽織

第一 本裁男裕羽織

普通仕立上げ寸法裁ち方積り方標付け方は、總て本裁男綿入羽織に同じ。但し、前下りは左圖の如く標し、衿には合標をなすべし。



本裁男袷羽織前下りの標付け方



袷の標付け方



縫ひ方

- 一、袖 裏袖に袖口切れを掛け、袖口の表裏を合せて縫ひ、袖幅の標をなす。
- 二、胴接ぎ前下り 前後の胴接ぎをなし、胴裏の方へ折りて、襷を掛け、次に前下りを、表は標通り、裏は標より一分内を、前幅標まで縫ひ、裏の方へ折り、引き返して表を五厘ふかせ、裏の方を見て、表裏共に襷を掛く。
- 三、脊縫後襷附 表を中にして二枚の

後身頃を重ね、胴の接ぎ目を合せ、裾を揃へ、袷肩明を右にし、裏布を向ふに折り重ね、袷肩明の方より、脊を一針抜きに、四つ縫

ひになし、表布の方へ折る。

襷裏を接ぎて裏布の方へ折り、表を外にして、表裏の襷丈標を折り合せ、襷幅の中央に、表裏共に假綴をなし、後身頃にて後襷を挟み、四つ縫ひになし、表身頃の方へ折る。

四、前綴乳附 前身の袷附を表裏合せ、表幅を稍張り目に、針を打ちて綴ち、乳を附く。

五、袷附 本裁男綿入羽織の如く待針を打ち、前身頃を狭く畳み、之れを袷にて包み、合標を合せ、袷先より始めて、一針抜きに縫ひ上げ、袷山より四寸の合標の所に一針留め、其れより、袷の輪の方と身頃とを縫ひ合せ、平烙鍔を掛け、袷先を縫ひ、縫ひ込みを綴ち附け、上部より引き返して、其の所を紘け、折り目をよく整へ、襷を掛く。此の仕方を袋附又は鐵砲附といふ。



六、袖附 表袖と表身頃との山標を合せて、袖附をなし、(始め終り共に袖附標より五厘程縫ひ残す)袖の方へ折り、次に裏袖と裏身頃との山標を合せ、双方共縫ひ込みを開きたるまゝ、前袖附標より四五寸の所まで縫ひ、身頃の方へ折り、引き返して表を出し、男衿の如く、袖口に四つ留めをなし、袖口下を縫ひ、袖附に七つ留めをなし、袖下及び袂の丸みを縫ふ。

七つ留め 先づ、表の前身頃より始め、内外の袖、後身頃次に、裏の外袖、後身頃、内袖(裏の前身頃を除く)の順序に七枚を抄ひて結び留むるなり。(裏袖は、袖附標の所にて、袖下を三角形に折り返し置くべし。)

七、前襟附 前身頃にて前襟を挟み、裾を揃へ、標を合せ、一針抜きに縫ひ付け、表身頃の方へ折り、引き返して表を出し、後ち、裏袖

附の縫ひ残したる所を締め、男衿の如く、袖に躡をかか。

〔注意〕 八つ留め 袖附留めを八つ留めになすことあり。其の仕方は、七つ留め

と同じ順序に抄ひ、尚ほ、裏の前身頃をも加へて、八枚を抄ひ留むるなり。

設問

- (1) 本裁羽織の裏用布を求むる方法を問ふ。
- (2) 本裁男衿羽織の縫ひ方順序を述べよ。
- (3) 本裁男衿羽織の袖附留めの順序を説明せよ。

第二 本裁女衿羽織

普通仕立上げ寸法、裁ち方、積り方及び標付け方は、總べて本裁女綿入羽織に同じ。但し、前下りの標、衿の合標の付け方は男衿羽織に同じ。

縫ひ方は概ね本裁男衿羽織に同じ。左に其の異なる所を述

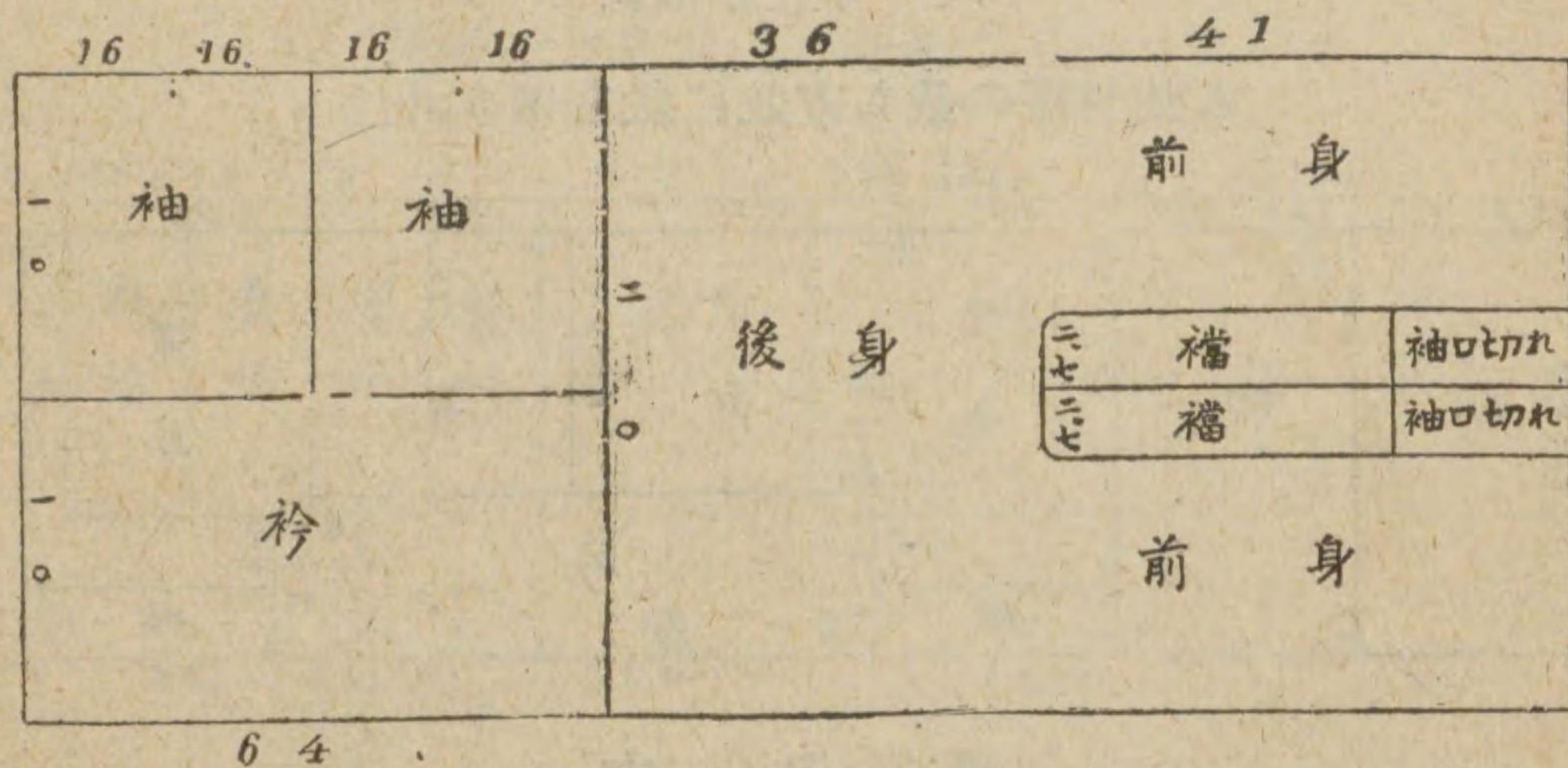


ふへし

先づ、本裁女袴と同じく袖を縫ひ、次に、本裁男袴羽織と同じく胴接ぎをなし、前下りを縫ひ、脊縫をなし、襜裏を接ぎ、襜の上幅を表裏縫ひ合せ、後身にて後襜を挟み、四つ縫ひになし、身八つ口標の所にて絲留めをなし、引き續きて、身八つ口を縫ひ、前綴をなし、衿を付け、前身にて襜を挟み、後襜と同様に身八つ口まで縫ひ、其れより、本裁女袴に倣ひて袖附を留め、表袖を縫ひ付け、袖の方へ折り、裏袖を、前身の袖附留めの三四寸上まで縫ひ、一針留め、身の方へ折り、縫ひ残しより表へ引き返し、其の部分をつけ附くるなり。

第三 本裁羽織各種裁ち方積り方

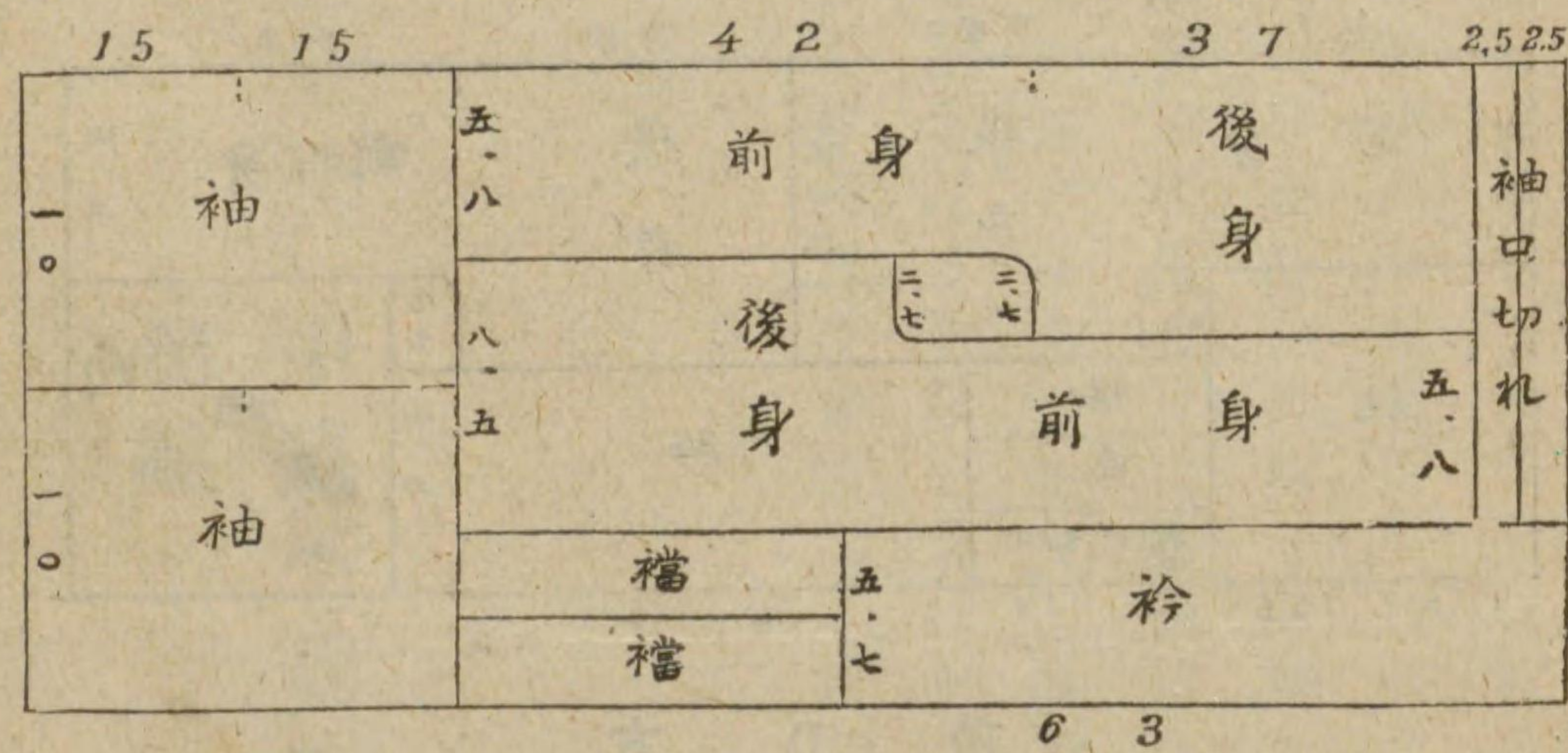
二尺幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈×4+後丈×2+前後の差=用布の總尺  
 $16 \times 4 + 36 \times 2 + 5 = 141$

二尺幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

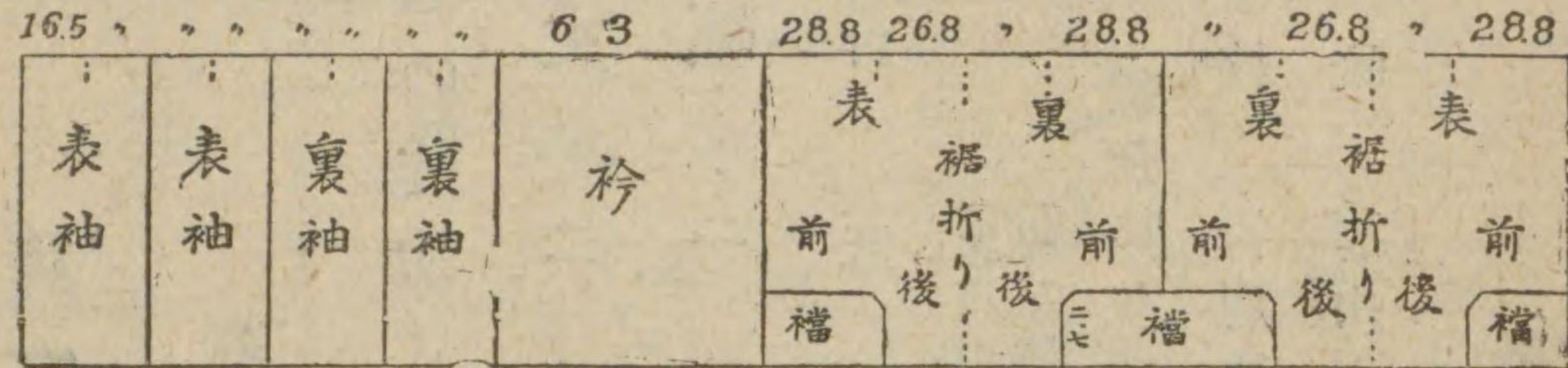


積り方

(袖丈+後丈+袖口切の幅)×2+前後の差=用布の總尺  
 $(15 + 37 + 2.5) \times 2 + 5 = 114$



並幅にて本裁女無双羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法  
 (袖丈一尺六寸上り身丈二尺六寸五分)



積り方

$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 10 + \text{總縫ひ代} = \text{用布の總尺}$$

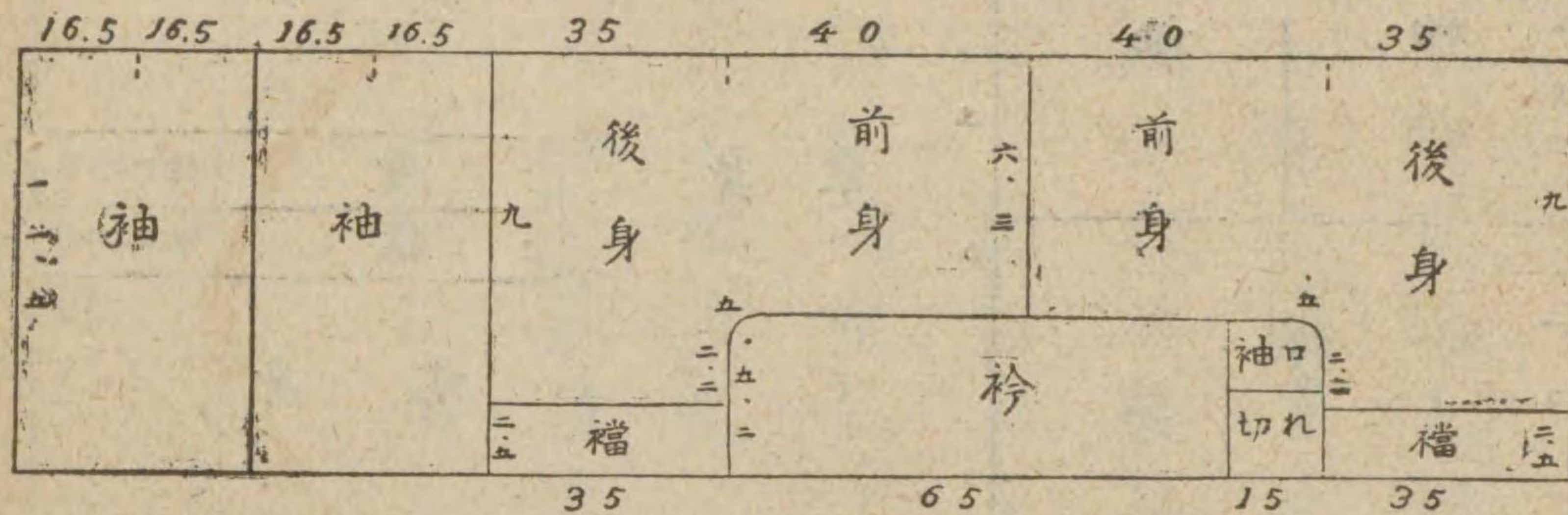
$$16 \times 8 + 26.5 \times 10 + 24.4 = 417.4$$

第二十章 中裁小裁綿入羽織

(1) 總縫ひ代の見込みは、袖に四寸、衿肩廻し及び衿先に一尺、前下りに八寸、三つ衿に二寸四分、合計二尺四寸四分なり。  
 (2) 無双羽織の用布には裏袖に口切れの分を染め抜けるものあり。又身頃は表裏引き續きなるを以て、之れを裁ち切るには、よく紋所及び裏模様は注意すべし。

〔注意〕

一尺一寸五分幅にて  
 本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

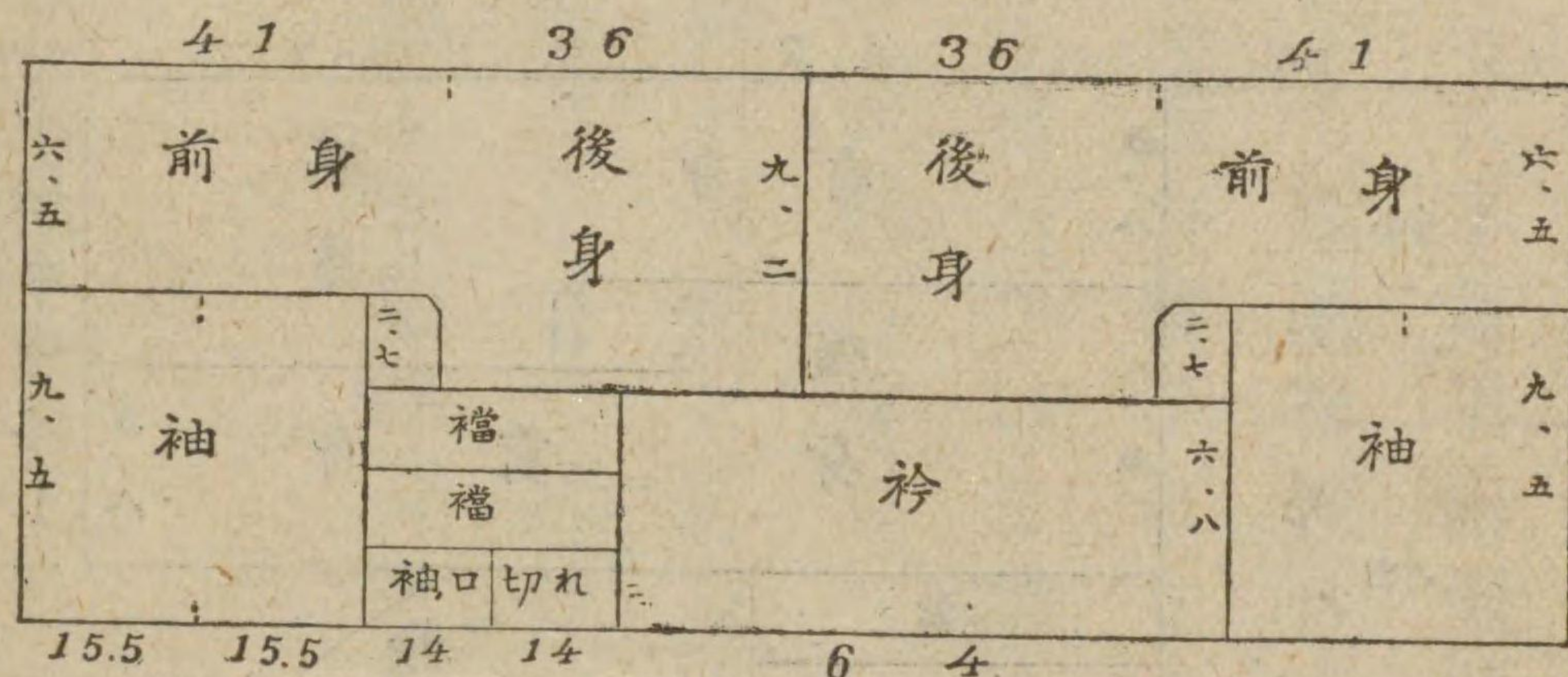


積り方

$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{前後の差} \times 2 = \text{用布の總尺}$$

$$(16.5 + 35) \times 4 + 5 \times 2 = 216$$

一尺六寸幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\text{後丈} \times 4 + \text{前後の差} \times 2 = \text{用布の總尺}$$

$$36 \times 4 + 5 \times 2 = 154$$



第一節 四つ身綿入羽織

第一 四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法により凡そ左の如く増減すべし。

- 袖丈...二分増
- 袖口...同
- 袖附...二分増
- 袖幅...一分増
- 身丈...〔着丈より三寸内外減〕
- 衿肩明...二分増
- 衿幅...二分増
- 身八つ口...五分減
- 後幅...同
- 前下り...六・七分
- 乳下り...〔身八つ口の中程を標準とす〕
- 襦幅...〔上五分下衿幅と同寸〕

〔注意〕 紋所の位置は凡そ左の如し。

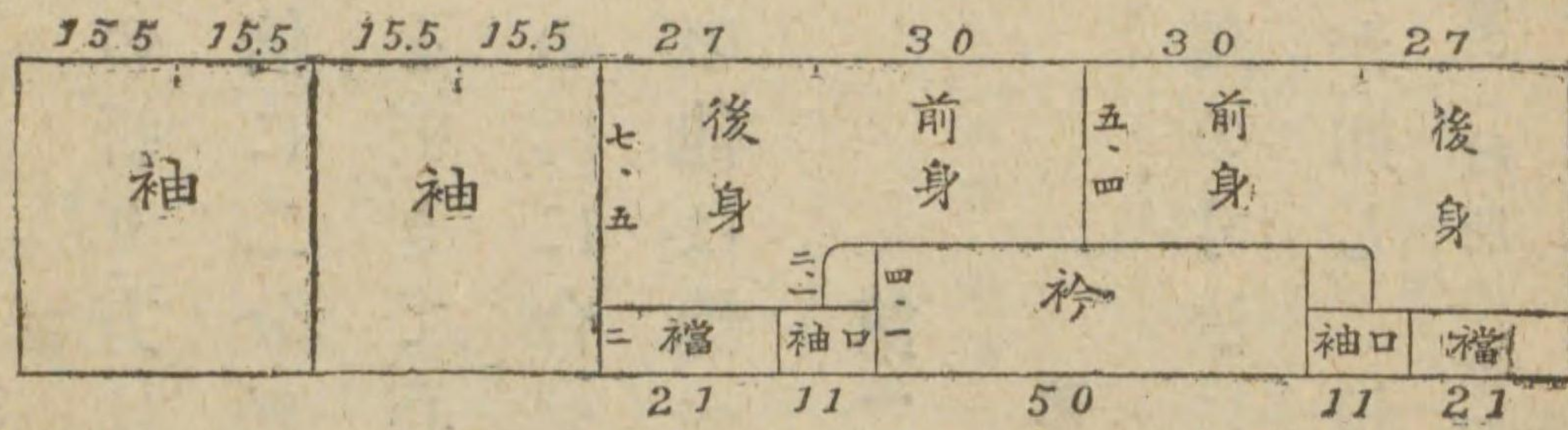
脊紋...衿肩明より一寸四・五分(裁ち切り)

抱紋...肩山より三寸三分

袖紋...袖山より一寸七分

第二 四つ身綿入羽織裁ち方・積り方

並幅一丈七尺六寸にて四つ身羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法  
(袖丈一尺五寸上り身丈二尺二寸)

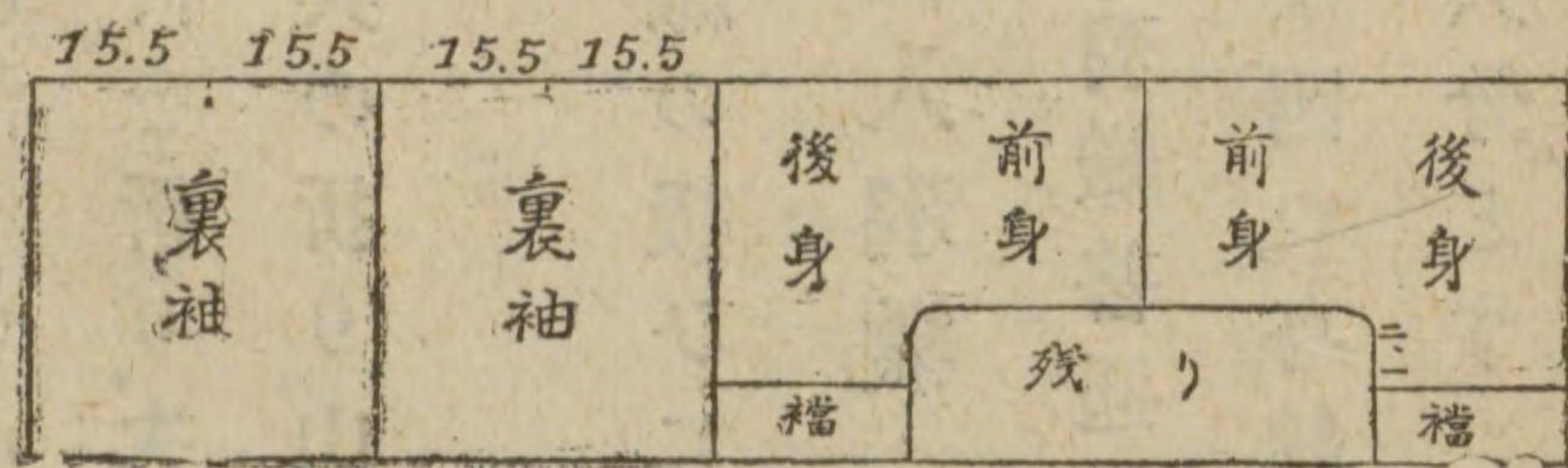


積り方

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差} \times 2) \\ 176 - (15.5 \times 4 + 3 \times 2) \end{array} \right\} \div 4 = \text{後丈} = 27$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈} = 27 + 3 = 30$$

同裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$(\text{袖丈上り} + \text{身丈}) \times 8 + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$(15 + 22) \times 8 + 15.2 - 176 = 135.2$$

〔注意〕 總縫ひ

代の見込みは、袖と身頃  
に各、四寸前  
下りに四寸  
八分、三つ衿  
に二寸四分  
合計一尺五  
寸二分なり。



第三 四つ身綿入羽織標附け方・縫ひ方順序

衿の折り方は、先づ表布に半幅許りの心切れを綴ち置き、衿幅の二倍に二分五厘を加へて外衿を折り、次に、其の幅より二分五厘弱を引ききて、心切れを折り、又其の折り山を、裁ち目の方より六分内の所に合せて折るなり。

其の他は總べて本裁綿入羽織の扱ひに同じ。

第二節 三つ身綿入羽織

第一 三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法に據り、其の増減は四つ身綿入羽織につきて述べたるが如し。但し前下りは五六分とす。

〔注意〕 紋所の位置は凡そ左の如し。

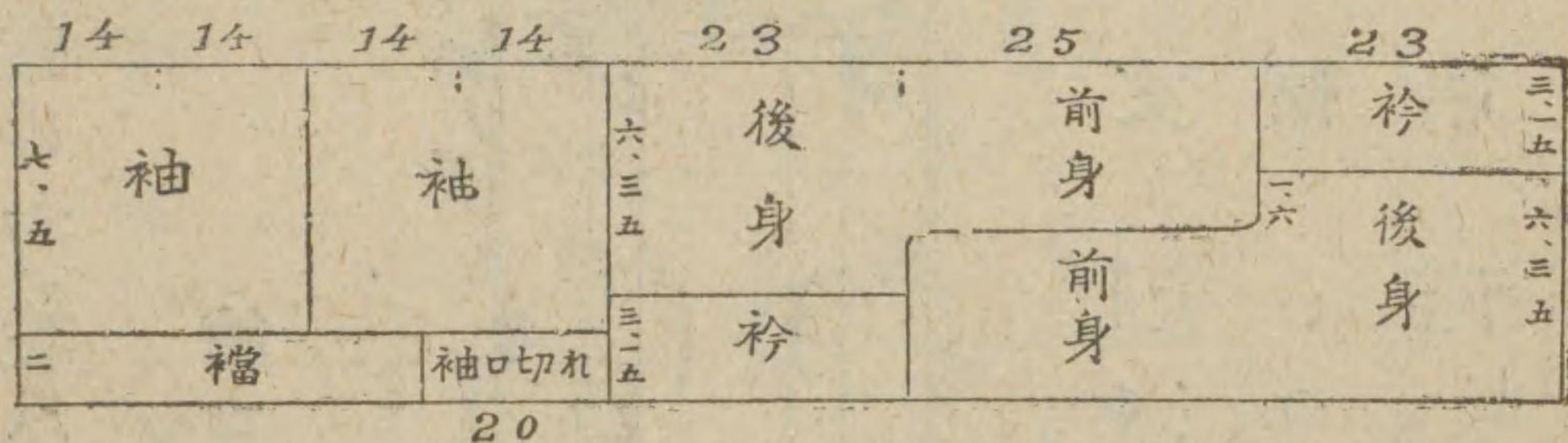
脊紋：…衿肩明より一寸二三分

抱紋：…肩山より三寸

袖紋：…袖山より一寸五分

第二 三つ身綿入羽織裁ち方・積り方

並幅一丈二尺七寸にて三つ身羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法  
(袖丈一尺三寸五分上り身丈一尺七寸)



積り方

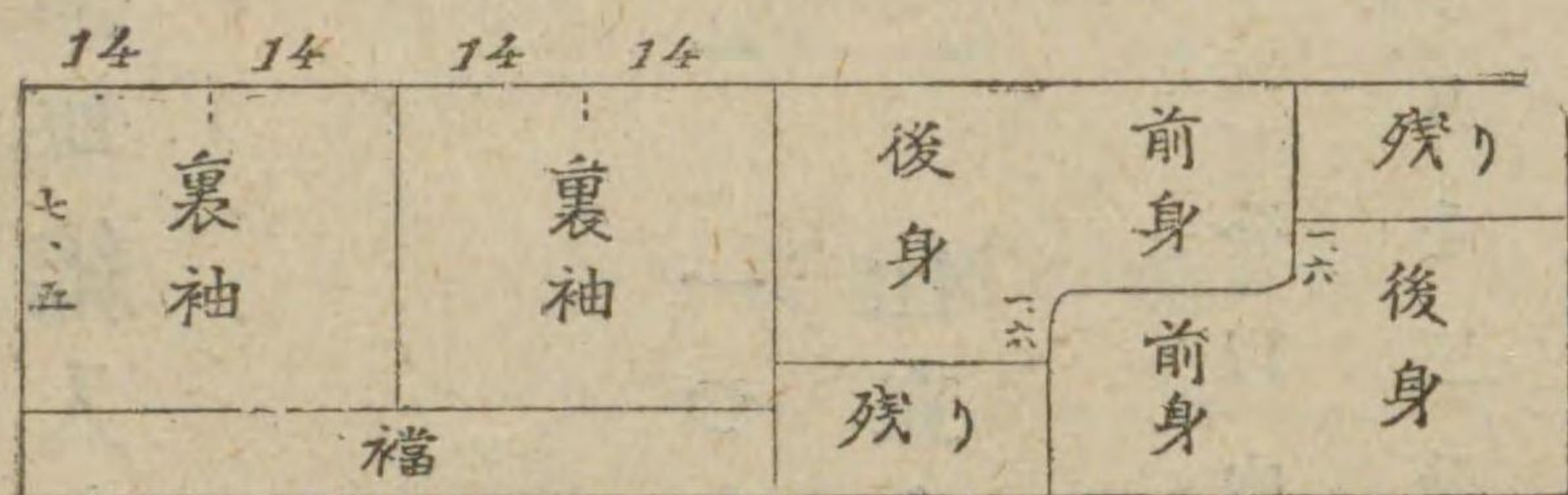
{用布の總尺-(袖丈×4+前後の差)}÷3=後丈

{ 127 -( 14 × 4 + 2 ) } ÷ 3 = 23

後丈+前後の差=身丈

23 + 2 = 25

同裏布の裁ち方



積り方

袖丈上り×8+身丈×6+總縫代-表用布の總尺=裏用布の總尺

135 × 8 + 17 × 6 + 10.8 - 127 = 93.8

〔注意〕 總縫ひ代の

見込み左の如し。

袖：…四寸

身頃：…三寸

前下り：…二寸

三つ衿：…一寸八分

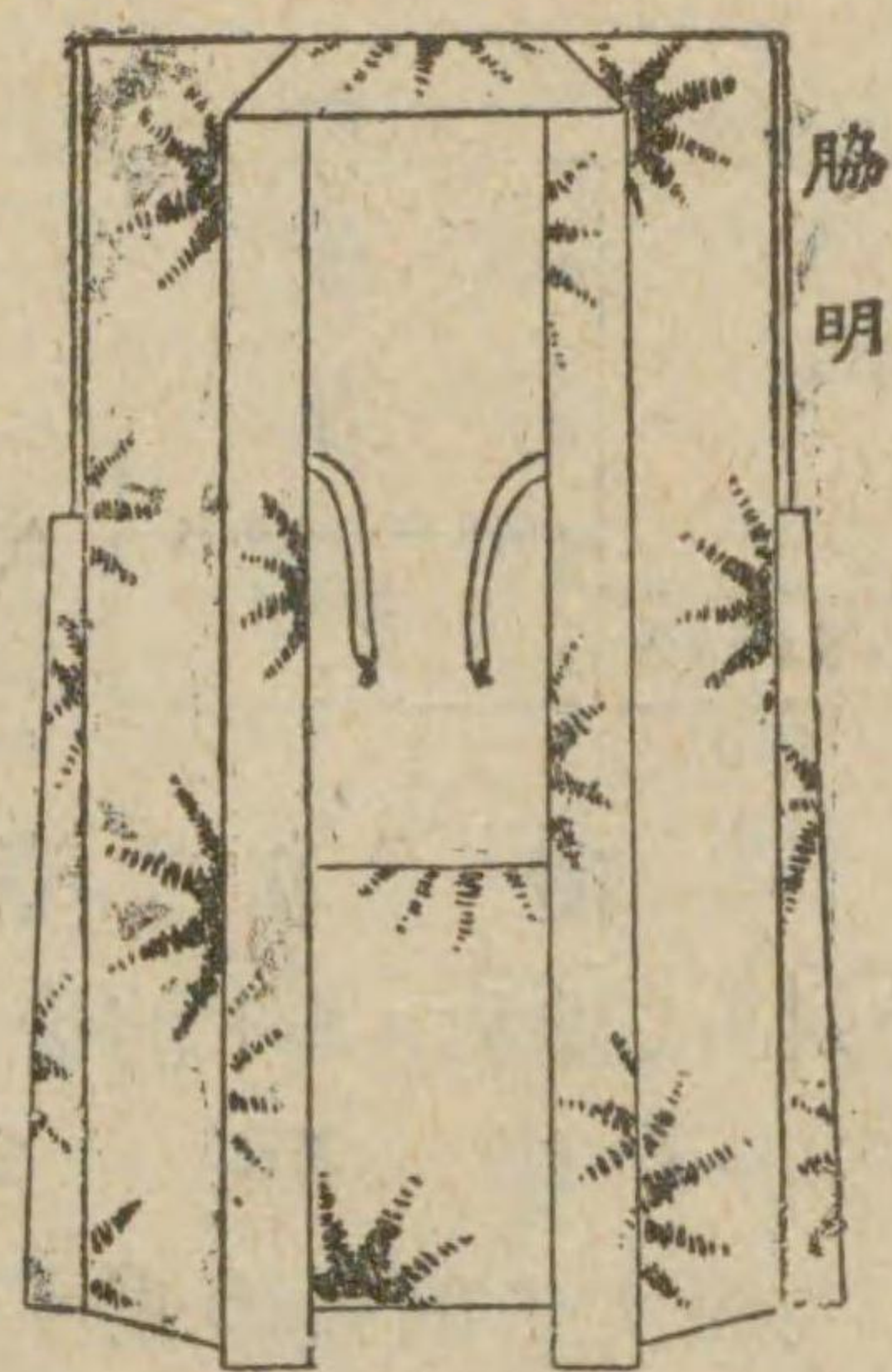
合計：…一尺八分



標付け方・縫ひ方順序は、何れも四つ身綿入羽織に同じ。

### 第三節 一つ身袖無綿入羽織

袖無羽織の圖

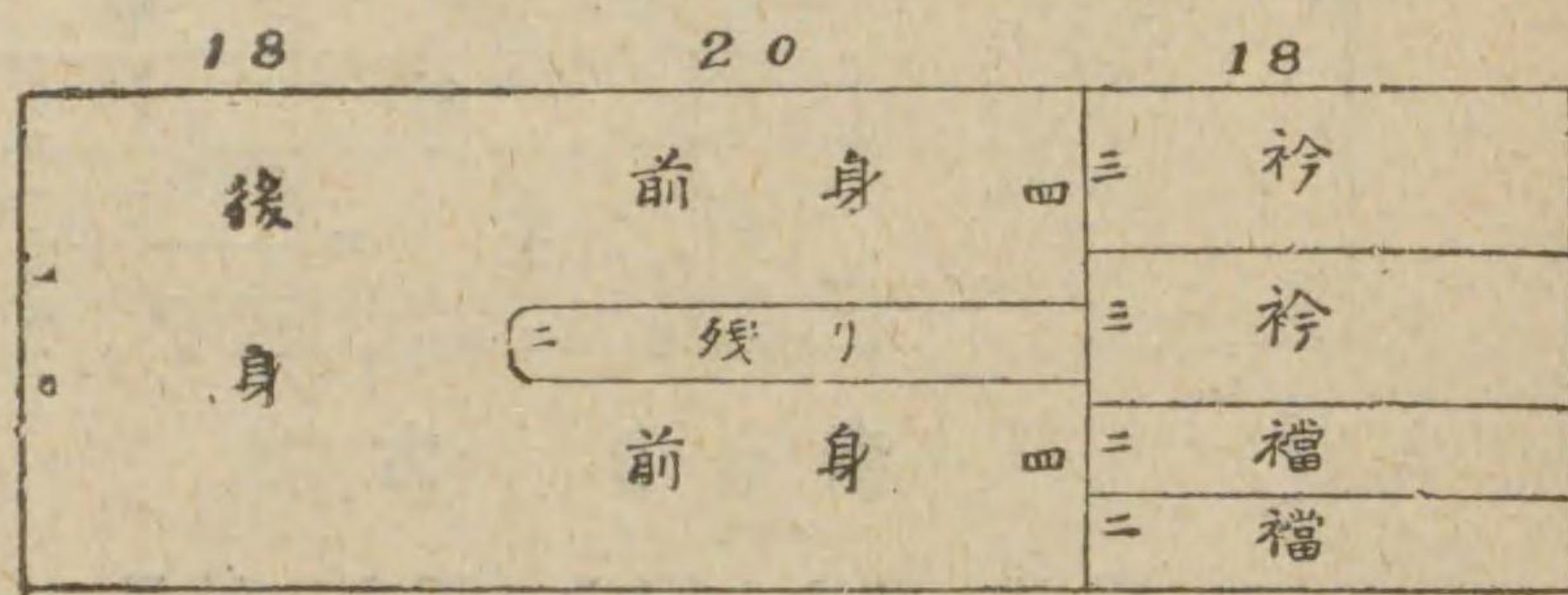


第一 一つ身袖無綿入羽織普通  
仕立上げ寸法

身丈……凡そ一尺  
 身幅……いつぱい  
 襟幅……凡そ一寸一分  
 前下り……凡そ三分  
 紐附……脊より六寸  
 脇明……凡そ五六寸  
 肩繰り越し……二分以内

### 第二 一つ身袖無綿入羽織裁ち方・積り方

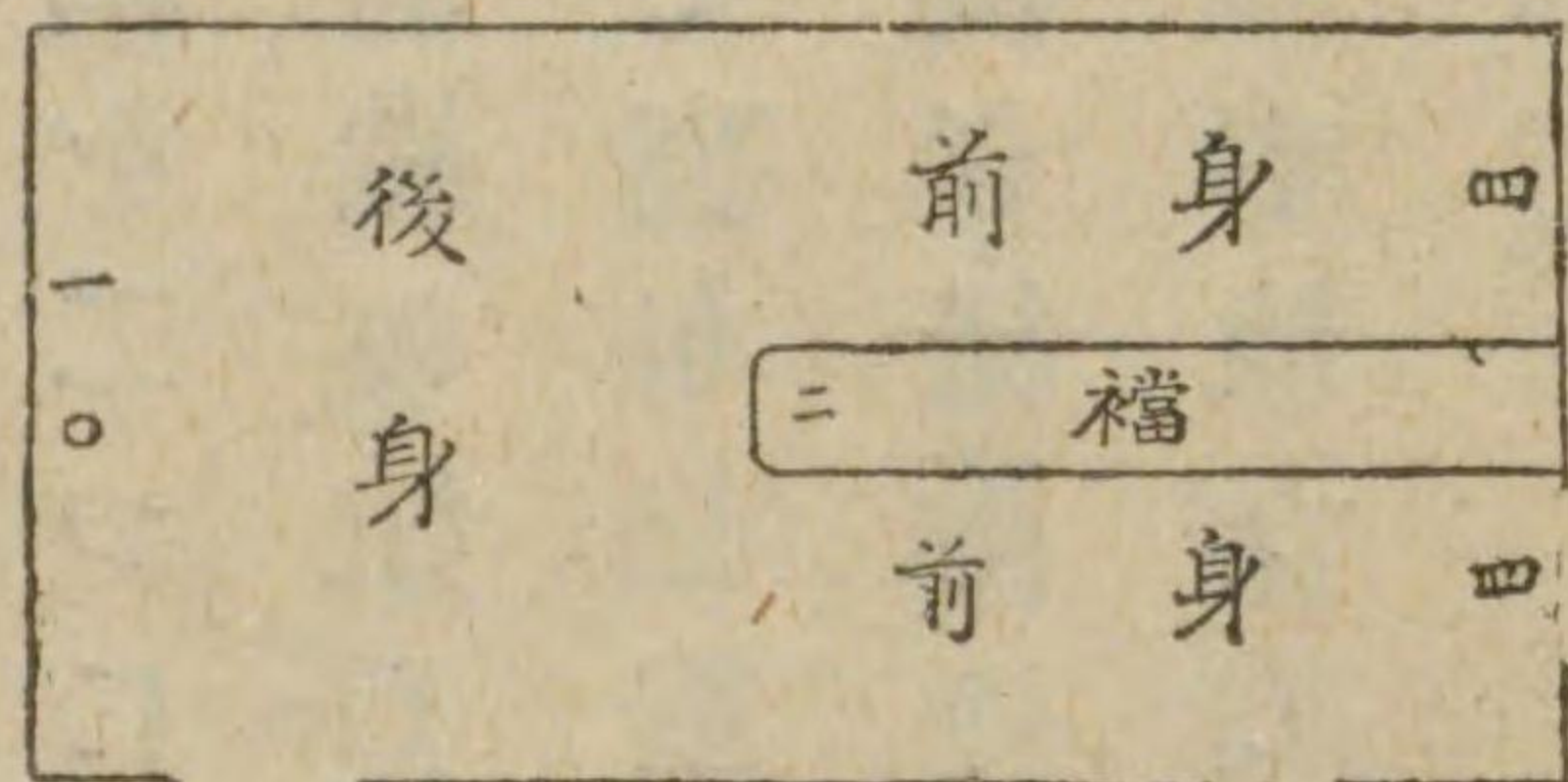
一尺幅にて袖無羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



#### 積り方

後丈+前丈+衿丈=用布の總尺  
 $18 + 20 + 18 = 56$

同裏布の裁ち方



#### 積り方

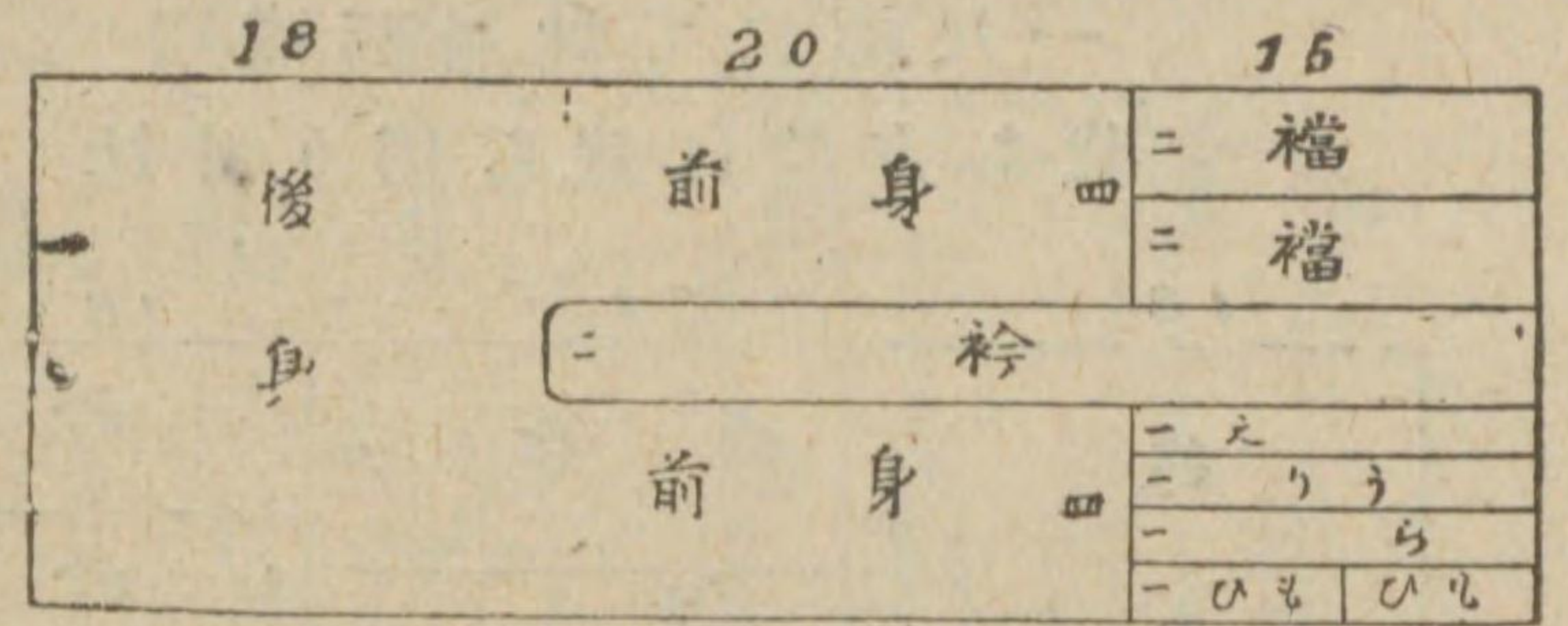
身丈×4+衿丈+總縫代-表用布の總尺=裏用布の總尺  
 $15 \times 4 + 18 + 5.2 - 56 = 27.6$

〔注意〕

總縫ひ代の見込みは身頃に二寸、前下りに二寸、三つ衿に一寸二分、合計五寸二分なり。



一尺幅にて袖無羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

後丈+前丈+襦丈=用布の總尺  
 $18 + 20 + 15 = 53$

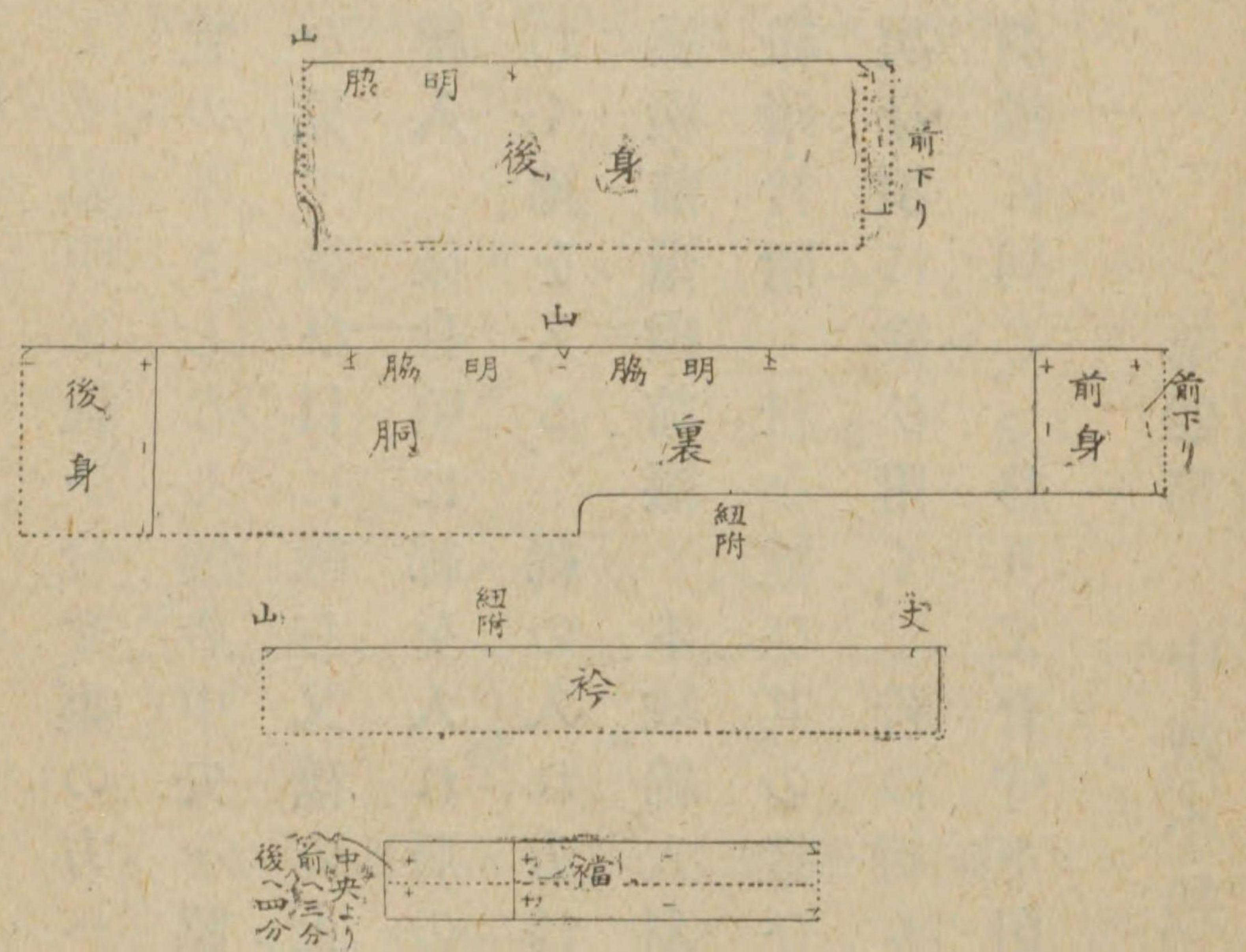
裏布の積り方

身丈×4+襦丈+總縫ひ代-表用布の總尺=裏用布の總尺  
 $15 \times 4 + 15 + 5.2 - 53 = 27.2$

第三 一つ身袖無綿入羽織標付け方

- 一、身頃 表裏共に表を中にして幅を二つに折り、本裁女綿入羽織の如く、表布の丈を定めて裏布を重ね、山・脇明・身幅胴接ぎ・紐附の標を附く。
- 二、襦 本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。
- 三、衿 四つ身綿入羽織の扱ひに同じ。

一つ身袖無綿入羽織の標付け方



第四 一つ身袖無綿入羽織の縫ひ方順序

- 一、胴接ぎ前下り・襦附・脇明 胴接ぎ前下りの縫ひ方及び襦の付け方は、總べて本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。
- 脇明の表裏を揃へ、表布の幅標の一分外と裏布の幅標の一分内とを合せて、脇明標より一寸許りは斜



に待針を打ち、脇明標を四つ留めになし、襜の上部を縫ひ、其れより、脇明を縫ひ合せ、裏の方へ折り、凡そ一寸五分幅の綿を適宜の厚さとなし、幅の中央を脇明の表布の縫ひ目に當て、裏布を見て、縫ひ目に綴ち、又襜の上部にも同じく綿を綴ち附く。

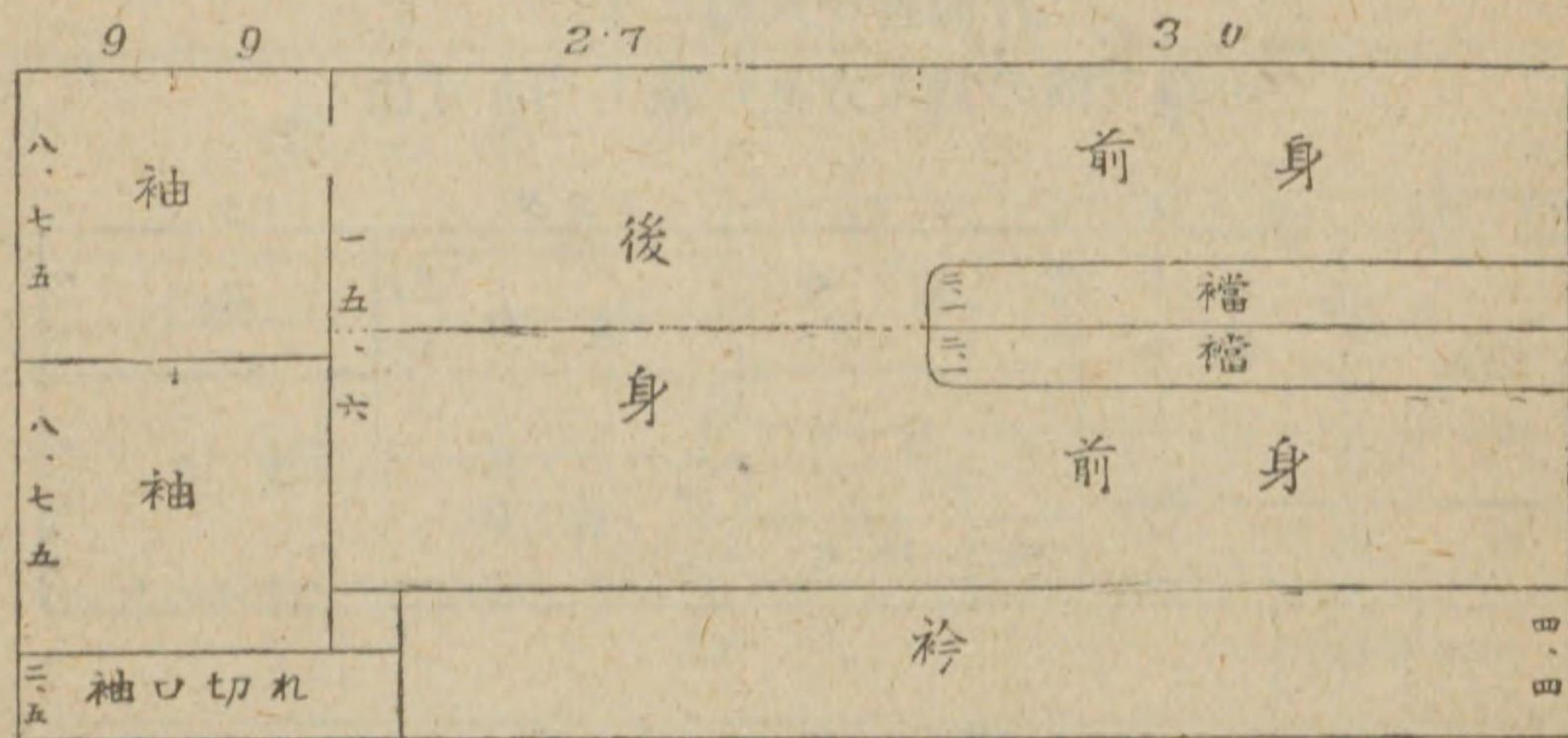
二、綿入 後身頃に綿を入れ、肩の所より引き返し、前身頃にも同じく綿を入れる。綿の入れ方は畧、本裁女綿入羽織の時に同じ。

三、裾綴前襜綴前綴 本裁綿入羽織に同じ。

四、紐附衿附 紐を縫ひ、其の縫ひ目を紐裏の中央として、之れを裏身頃に縫ひ附く。衿の折り方、附け方は總べて四つ身綿入羽織に同じ。終りて、脊守を附け、肩揚をなすなり。

第四節 中裁小裁羽織各種裁ち方・積り方

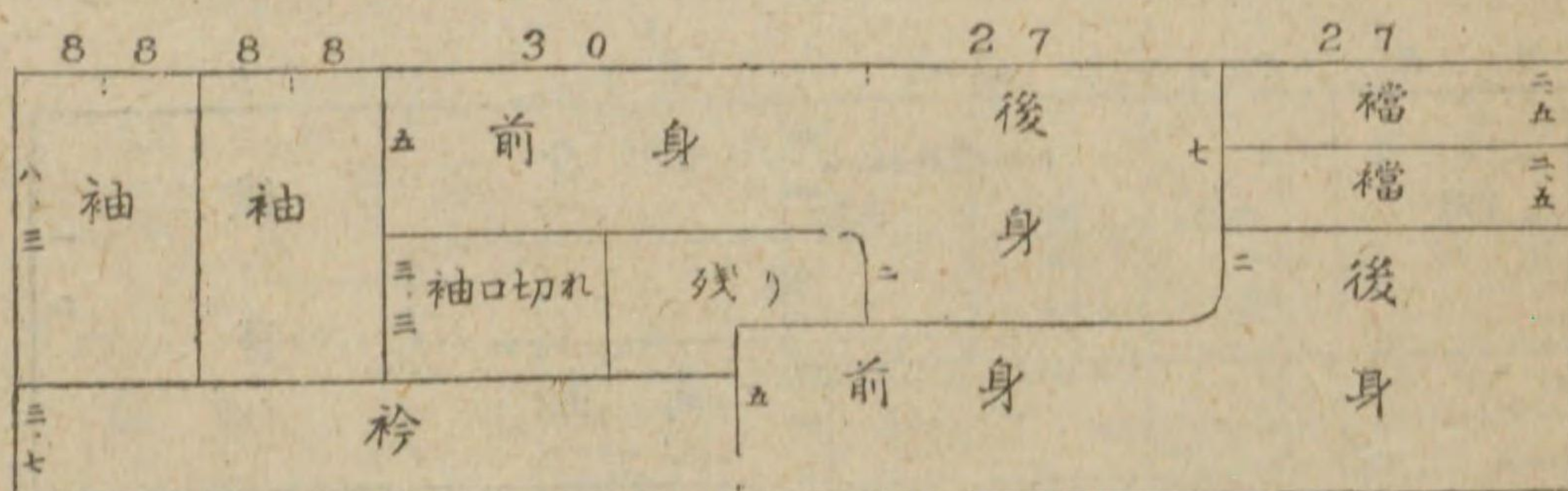
二尺幅にて元祿袖中裁羽織の裁ち方並に裁切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} &(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 2 + \text{前後の差} = \text{用布の總尺} \\ &(9 + 27) \times 2 + 3 = 75 \end{aligned}$$

片面物一尺二寸幅にて中裁羽織の裁ち方並に裁切り寸法

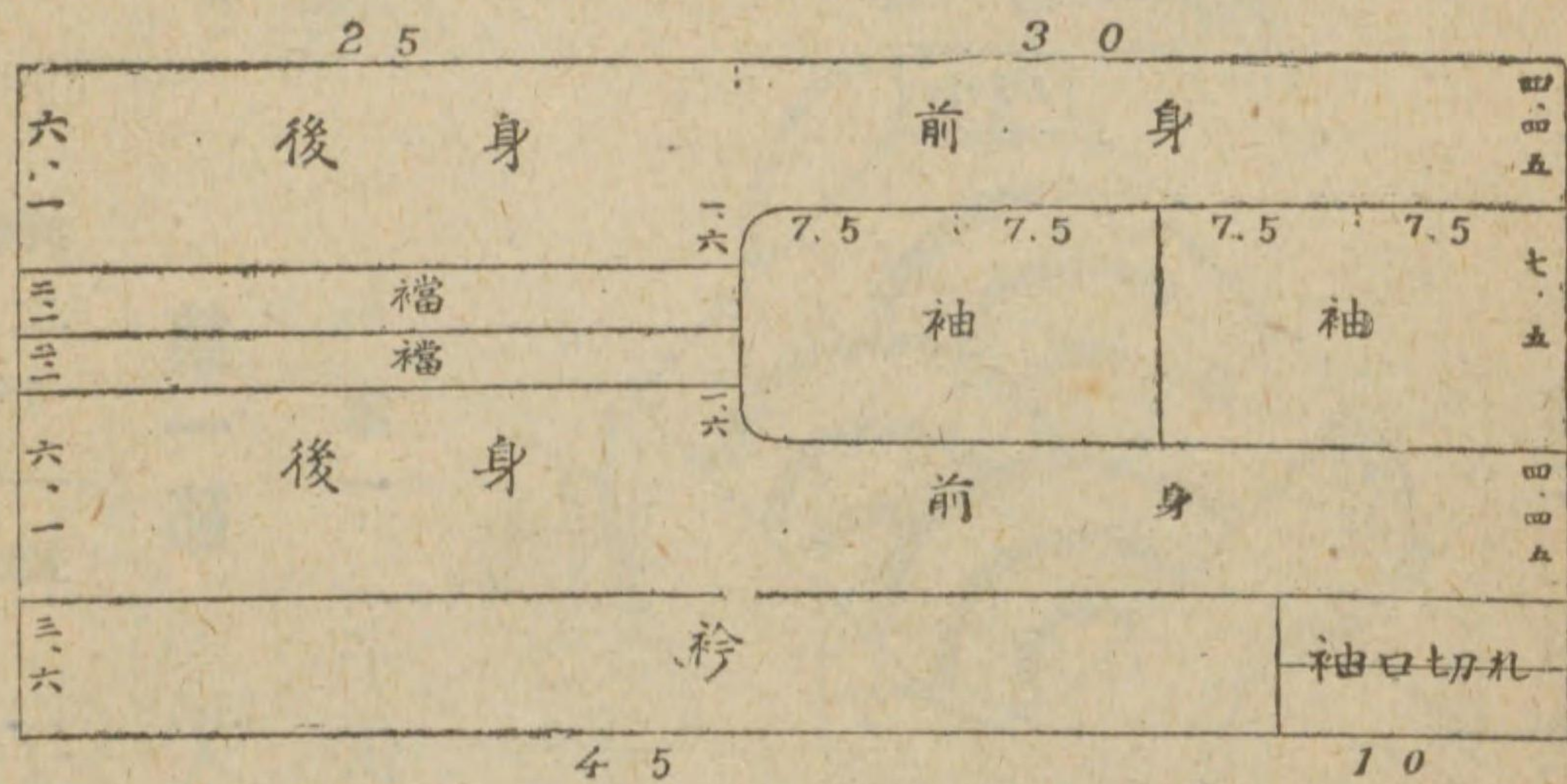


積り方

$$\begin{aligned} &\text{袖丈} \times 4 + \text{後丈} \times 3 + \text{前後の差} = \text{用布の總尺} \\ &8 \times 4 + 27 \times 3 + 3 = 116 \end{aligned}$$



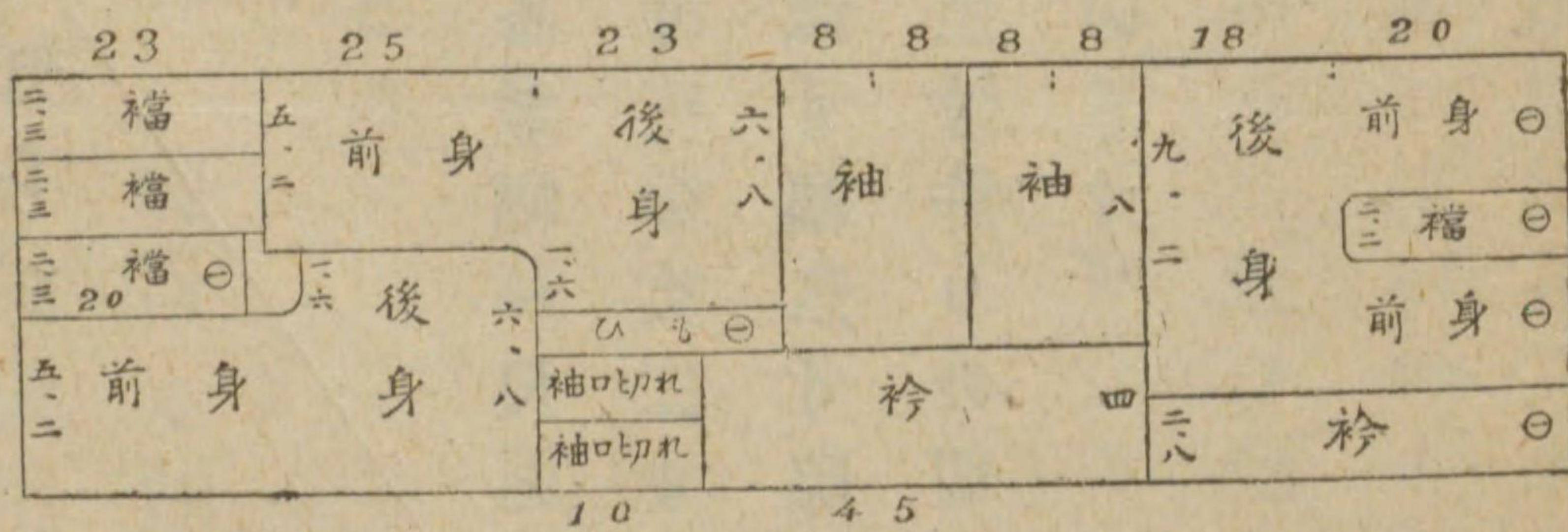
片面物二尺幅五尺五寸にて  
小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

前丈 - 前後の差 = 後丈 (用布の總尺 + 前後の差) ÷ 2 = 前丈  
 30 - 5 = 25 ( 55 + 5 ) ÷ 2 = 3

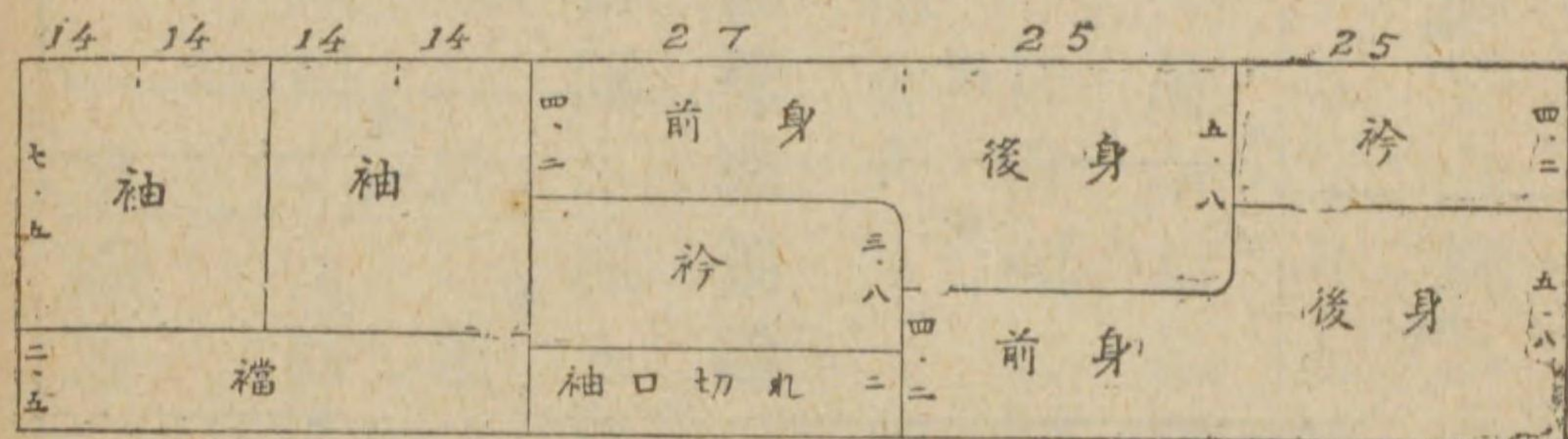
片面物一尺二寸幅にて  
三つ身筒袖羽織と一つ身袖無羽織の裁ち合せ方



積り方

三つ身袖丈 × 4 + 三つ身後丈 × 3 + 一つ身後丈 × 2 + 前後の差 × 2 = 用布の總尺  
 8 × 4 + 23 × 3 + 18 × 2 + 2 × 2 = 141

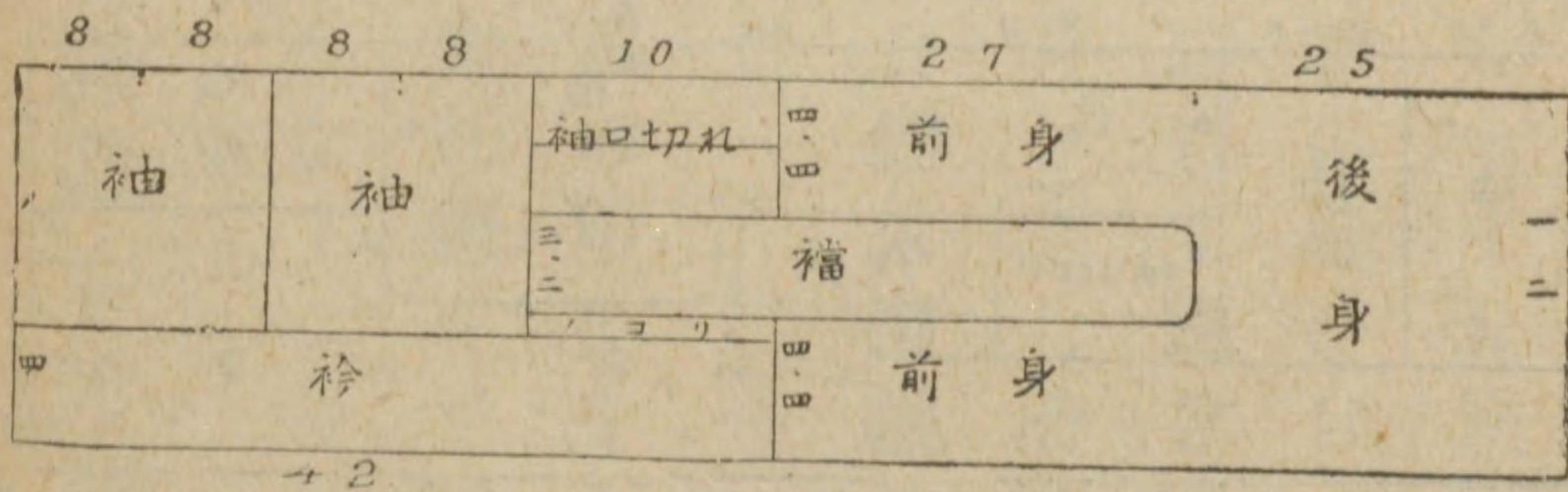
片面物一尺幅にて  
小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈 × 4 + 後丈 × 3 + 前後の差 = 用布の總尺  
 14 × 4 + 25 × 3 + 2 = 133

片面物一尺二寸幅にて  
元祿袖小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈 × 4 + 身丈 × 2 + 袖口切れ + 前後の差 = 用布の總尺  
 8 × 4 + 25 × 2 + 10 + 2 = 94



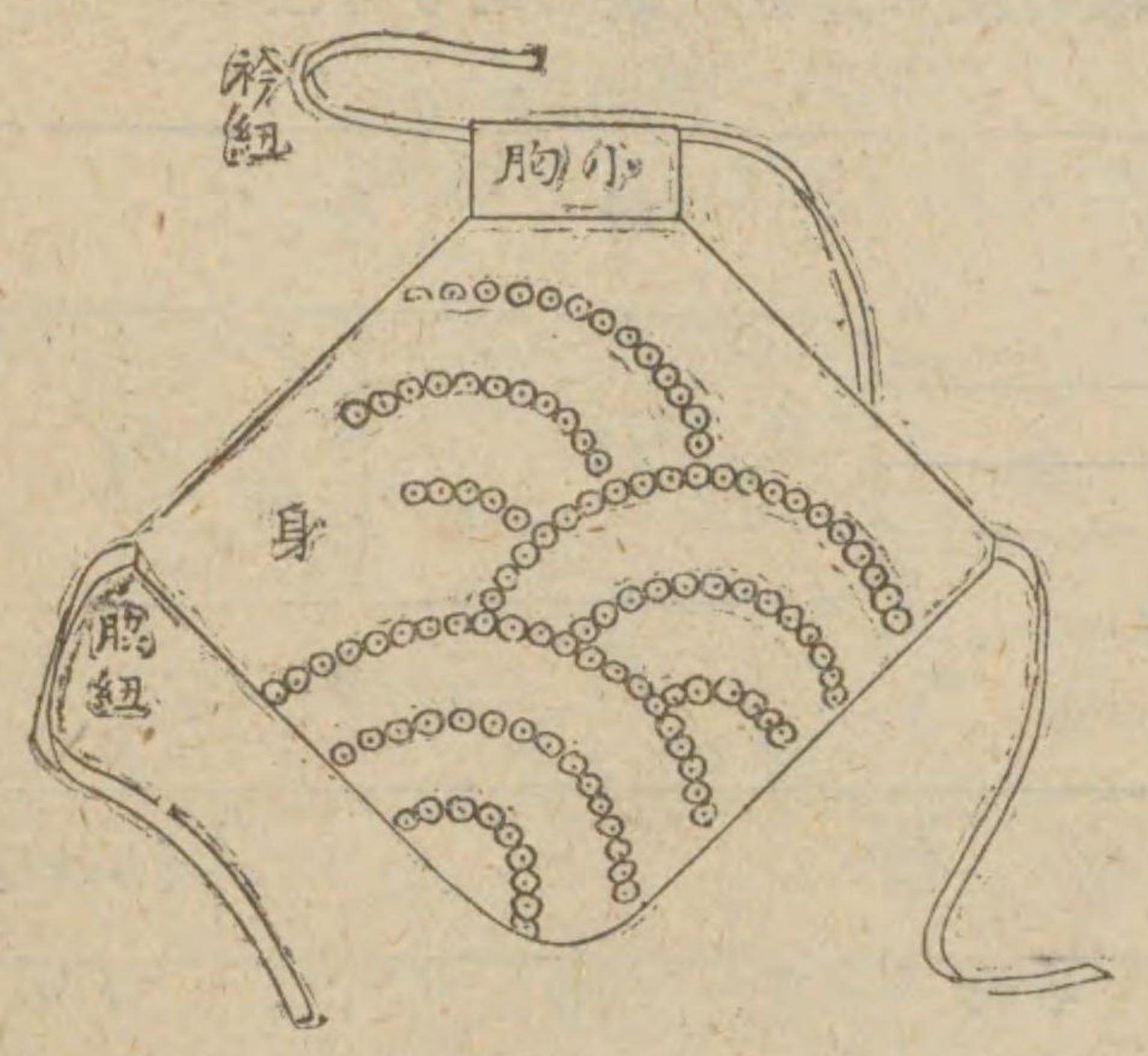
第二十一章 子供腹掛・寝冷え知らず

第一節 子供腹掛

第一 子供腹掛裁ち方

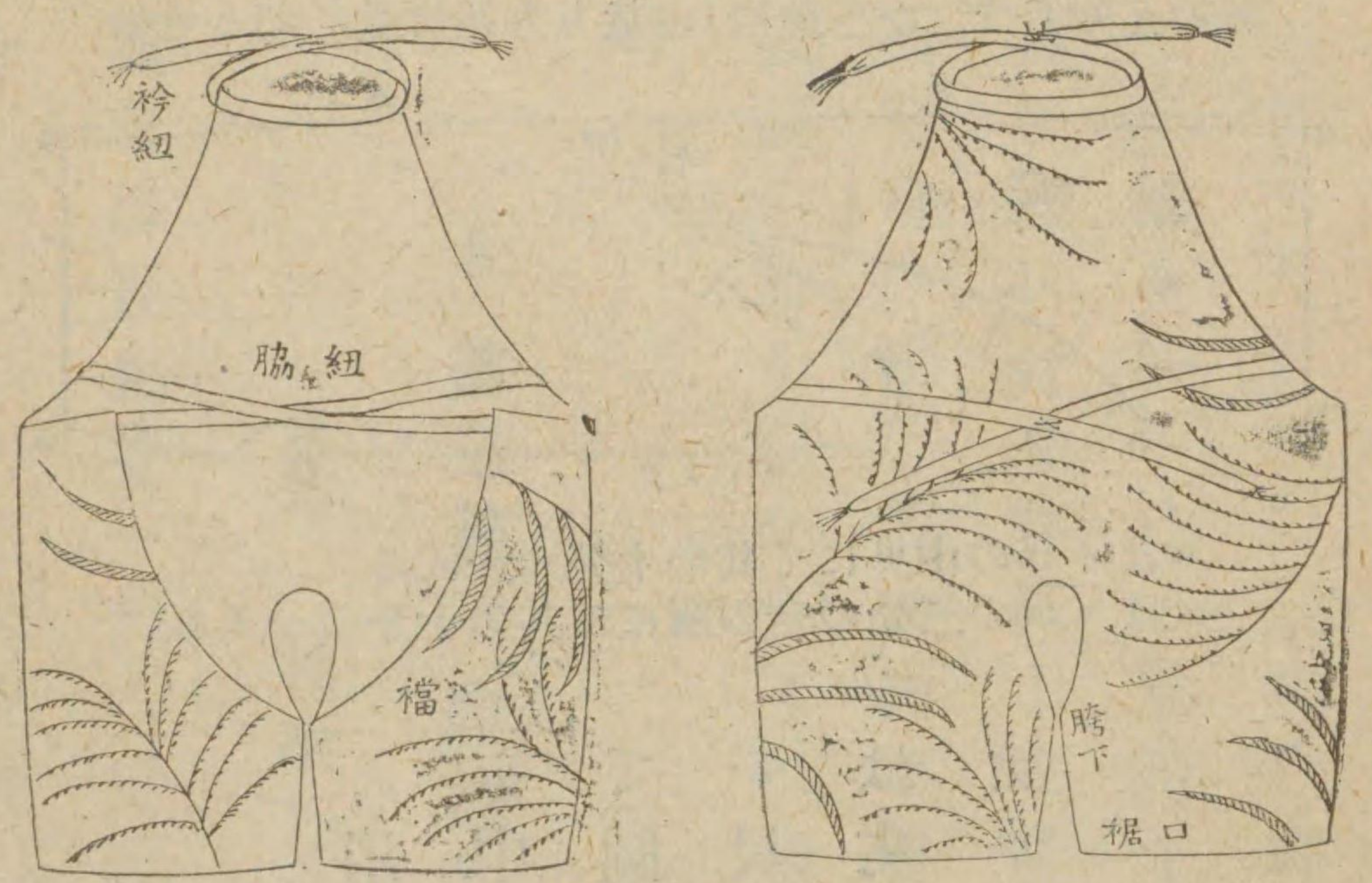
身は表裏各、並幅一尺とし、小胸は表裏各、幅二寸三分、丈二寸とす。衿紐には丈五六寸幅二寸、脇紐には丈一尺五寸、幅二寸許りの切れ、各二枚を用ふるものとす。

子供腹掛の圖



第二 子供腹掛縫ひ方順序

寝冷え知らず(二・三歳用)の圖



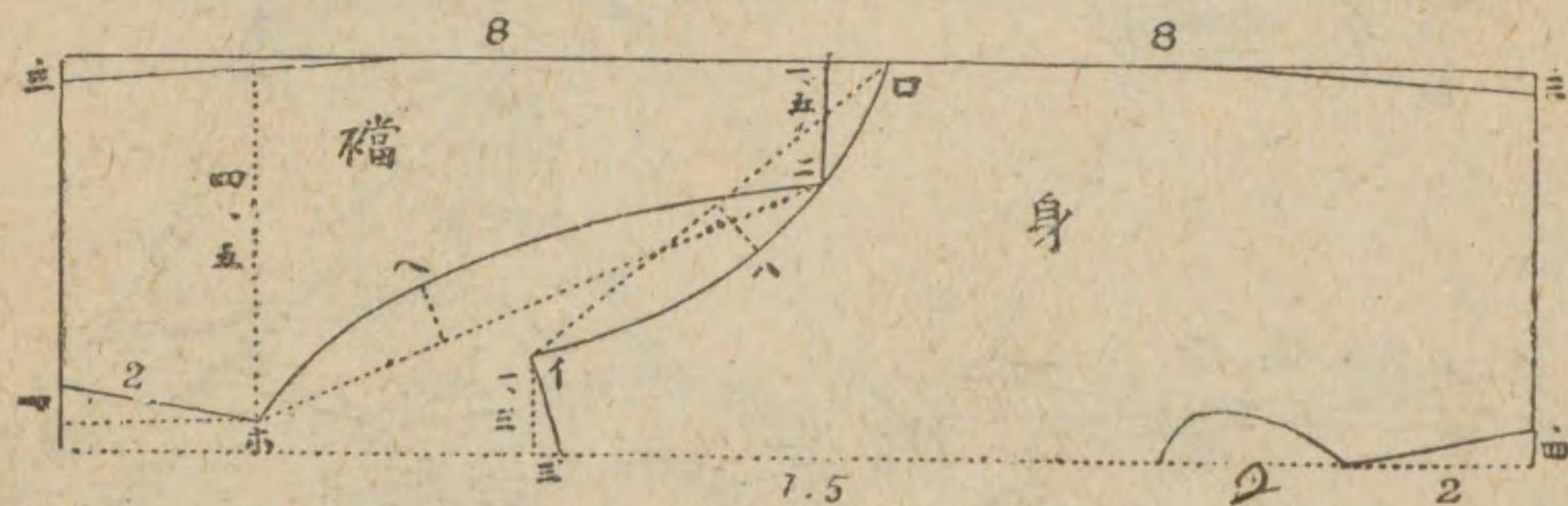
先づ、衿紐、脇紐各二本を拵け置き、次に、表裏の身を合せ、左右の角に脇紐を挟みて、縫ひ廻し、小胸附近二寸を残し、其の所より引き返し、廻りに襷を掛け、其れより、小胸の上角に衿紐を挟み、下方だけ残して、他の三方を縫ひ合せ、引き返し、小胸の表を身に縫ひ付け、裏を拵け附くるなり。

第二節 寝冷え知らず

(二・三歳用)



並幅一尺六寸にて  
寝冷え知らず(二・三歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



ハはイロの中央にて其の十分の一入る  
ヘはニホの三分の一の所にて其の十分の一入る

第一 寝冷え知らず(二・三歳用)

裁ち方

用布は表裏各、並幅一尺六寸とし、各表を中にして幅を二つに折り、二枚を重ねて、圖の如く裁ち切るべし。脇紐には丈一尺六寸幅一寸許りの切れ二枚、衿紐には丈一尺五・六寸幅八分許りの切れ、又はテツブを用ふるものとす。

第二 寝冷え知らず(二・三歳用)

縫ひ方順序

先づ、身の裾を表裏縫ひ合せ、脇紐を襦の上部に挟みて、襦の上部の刳り及び裾の表裏を縫ひ合せ、裏布の方へ折り、次に、身の表裏にて襦を挟み、襦の脇、胯下を四つ縫ひになし、前明刳り落しの表裏を縫ひ合せ、其れより、身の表裏を上方まで縫ひ行き、衿紐附の所を縫ひ残り、其の所より引き返して、衿紐を附くるなり。表裏の布を縫ひ合すには、裏布の縫ひ代を較、深くするをよしとす。

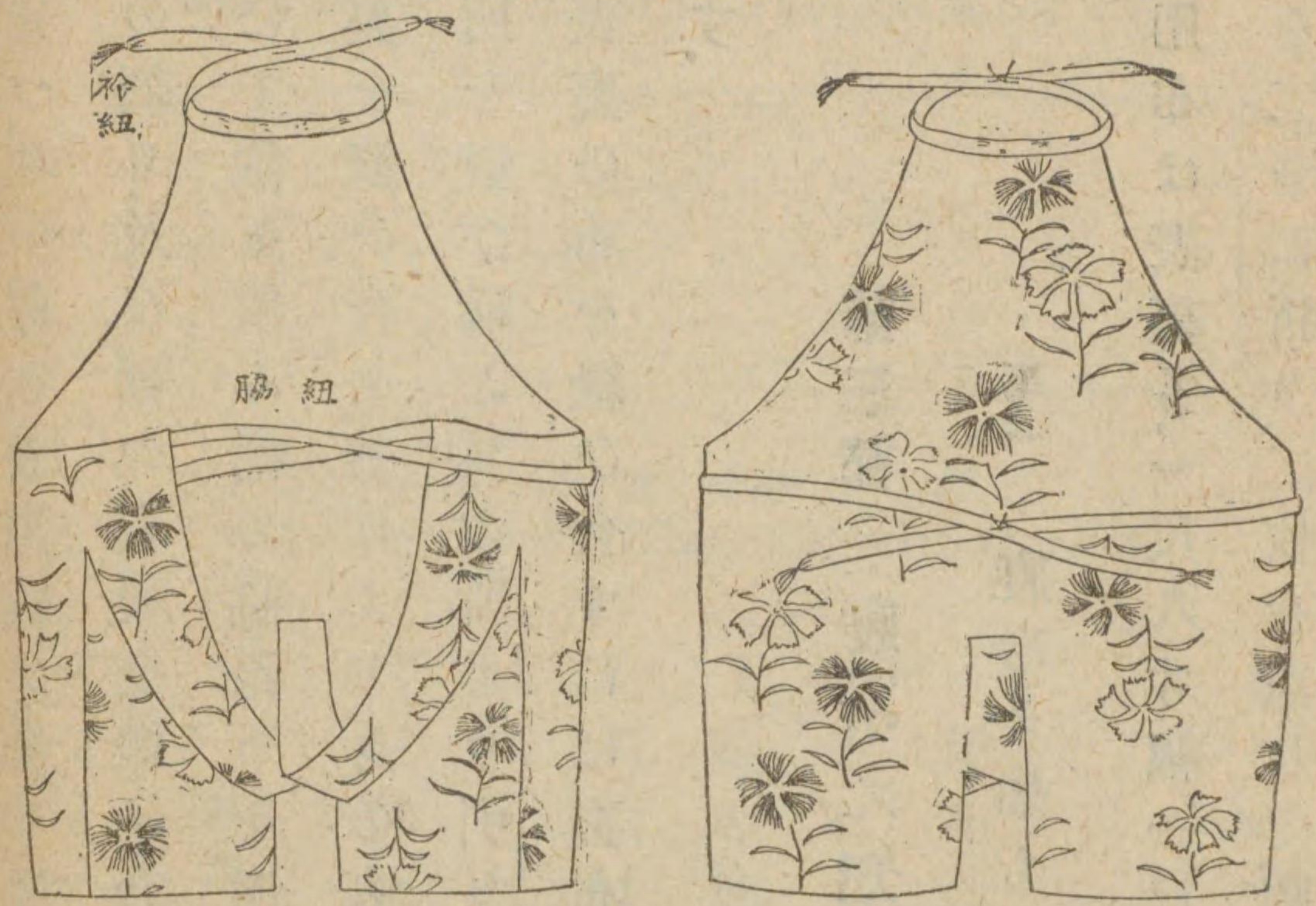
第三節 寝冷え知らず(五・六歳用)

第一 寝冷え知らず(五・六歳用)裁ち方

用布は表裏各、一尺八寸幅一尺六寸五分とし、各表を中にして幅を二つに折り、二枚を重ねて、圖の如く裁ち切るべし。脇紐に



寝冷え知らず(五・六歳用)の圖

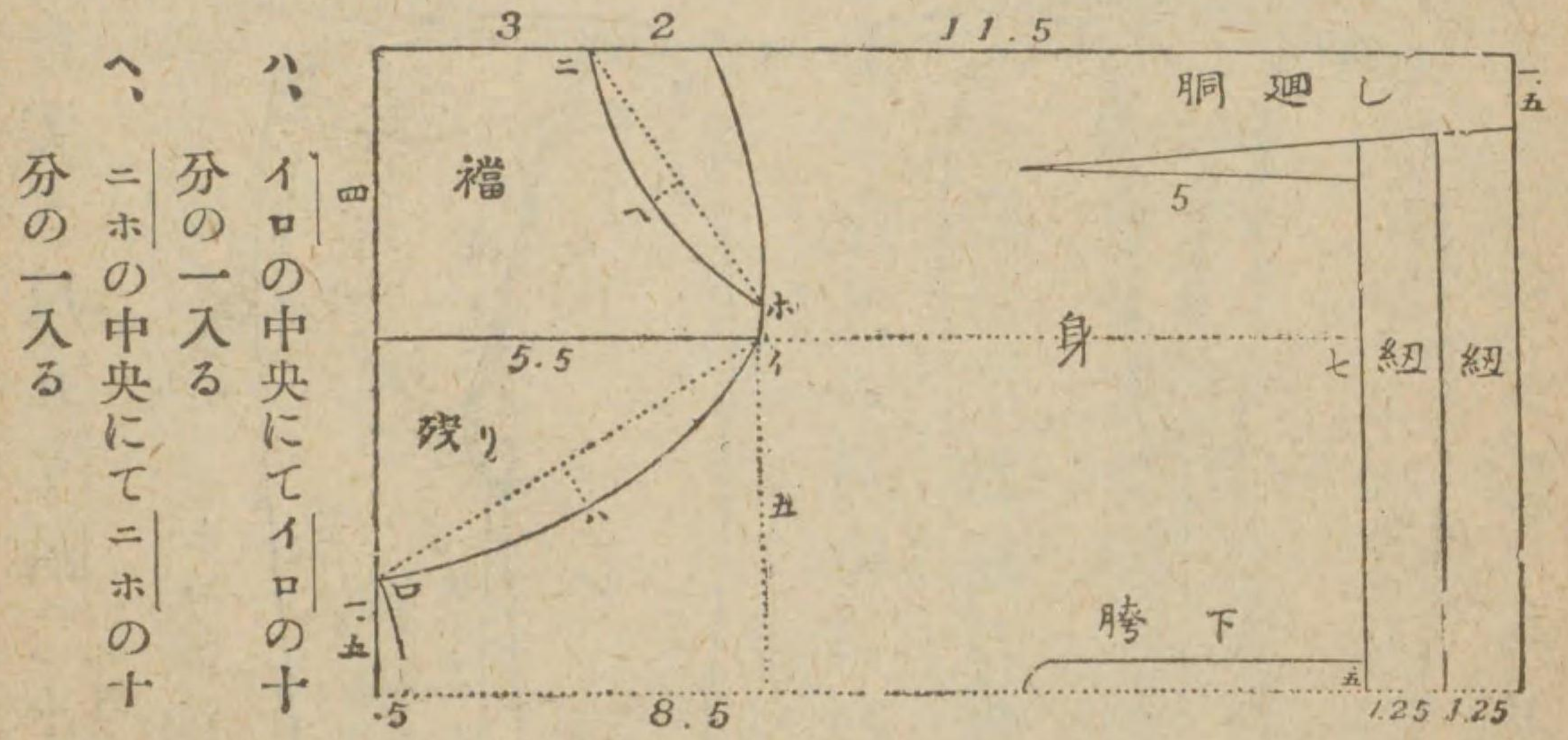


は丈一尺八寸幅一寸許りの  
切れ二枚、衿紐には二尺許り  
の切れ、又はテツブを用ふる  
ものとす。

第二 寝冷え知らず(五・六  
歳用)縫ひ方順序

先づ、身及び襠の裾を縫ひ  
合せ、身の左右の上角に脇紐  
を付け、其れより、左右共に胴  
廻しの外側より上方まで縫  
ひ廻し、身の表裏にて襠を挟

一尺八寸幅一尺六寸五分にて  
寝冷え知らず(五・六歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



みて、脇及び胯下を四つ縫ひになし、  
表に返し、次に、胴廻しの表布を襠の  
表裏に重ね、三枚を胯下の上端まで  
縫ひ合せ、胴廻しの裏を襠裏に拵け  
付け、胴廻しの先は前明<sup>ま</sup>刳<sup>く</sup>り落<sup>お</sup>しの  
所にて、右を下に左を上重ねて、表  
裏の身の間に挟み、恰好よくまつり  
付け、後ち、衿紐を附くるなり。

第二十二章 婦人股引

第一 婦人股引

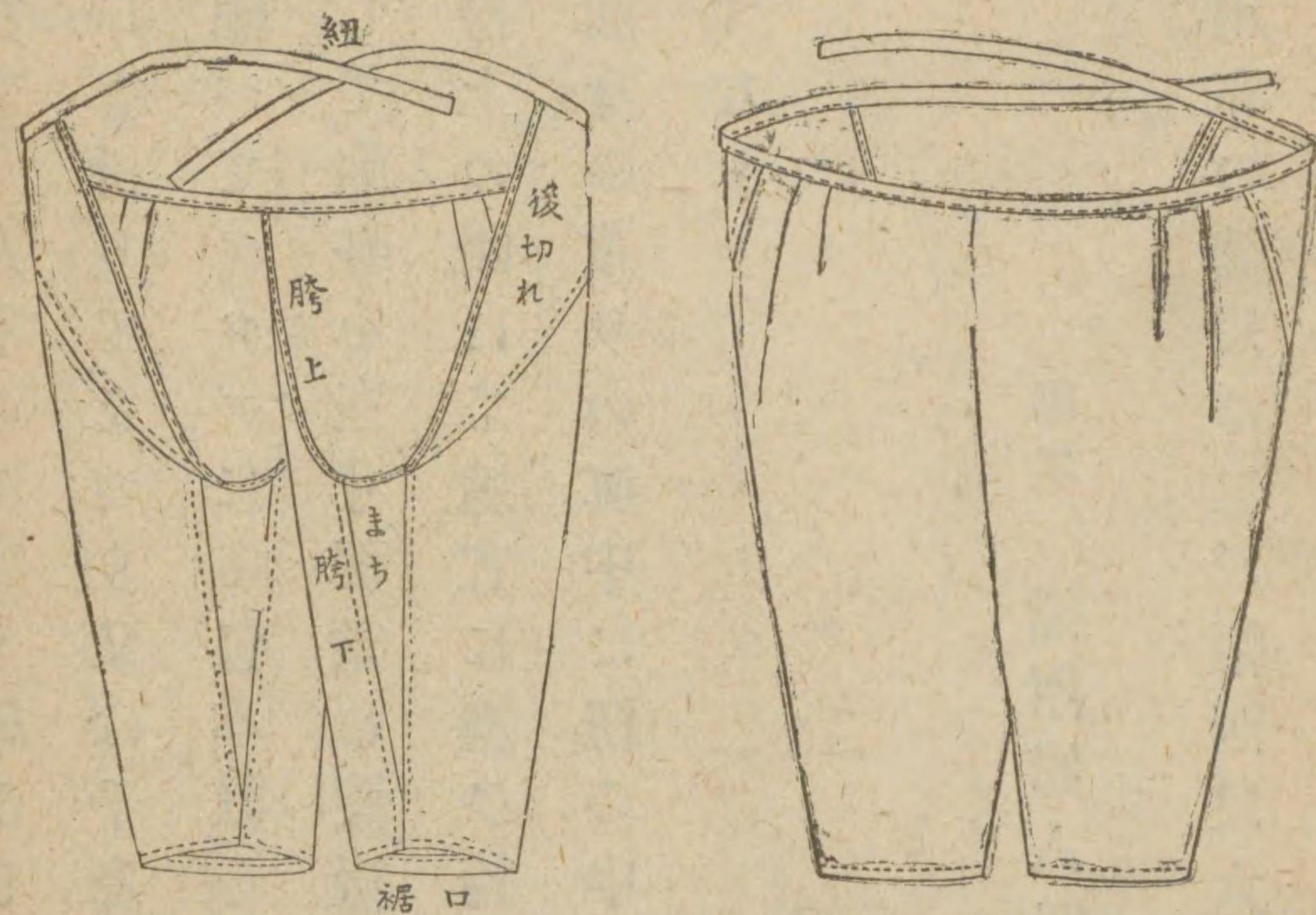
用布の總尺は二尺幅五尺とし、紐



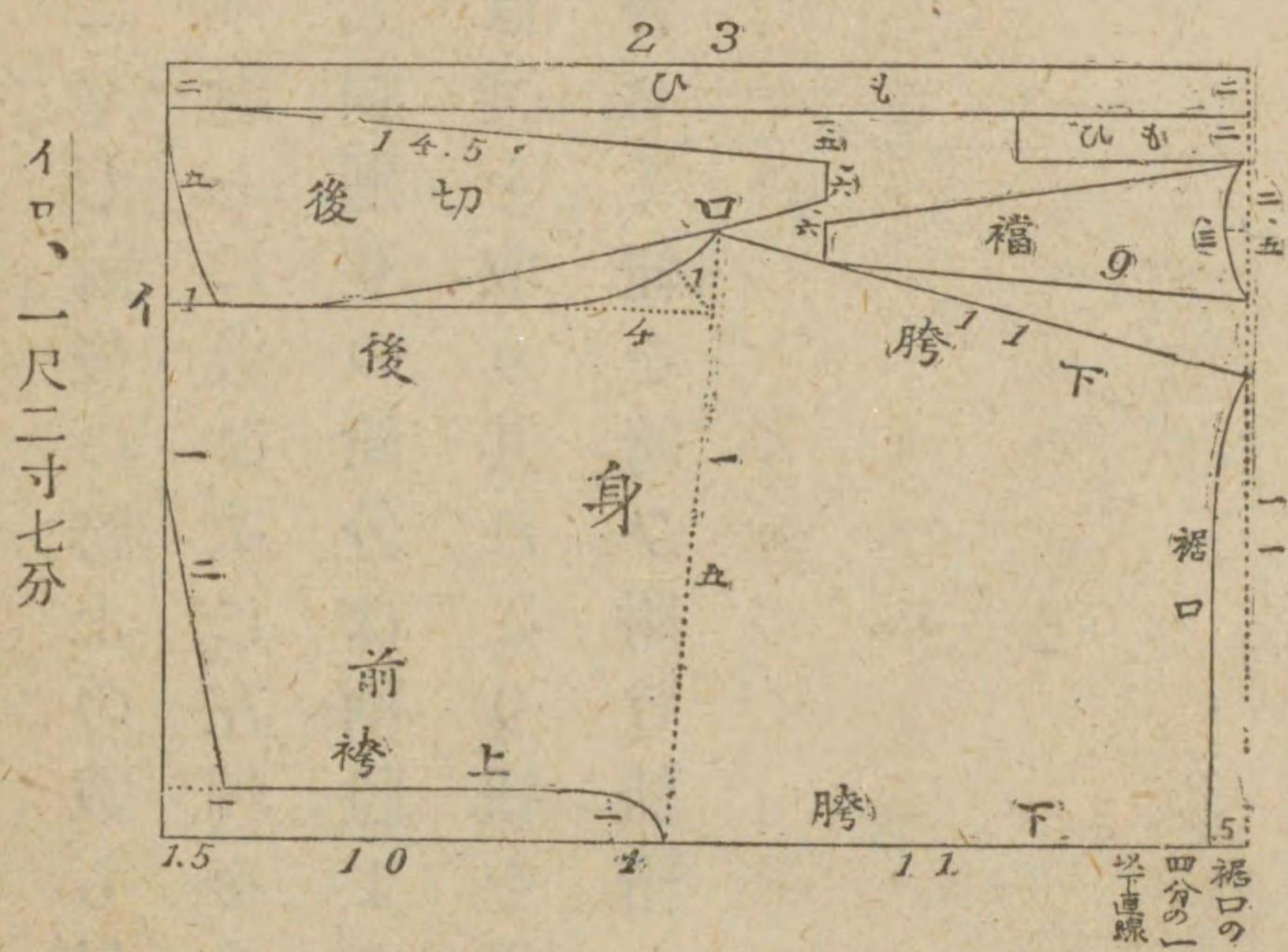




婦人股引の圖



二尺幅四尺六寸にて婦人股引の裁ち方並に裁ち切り寸法



縫ひ方 先づ、襠の一方を後身の胯下に縫ひ付け、身の方へ折り伏せてまつり、次に、襠の他方を前胯下に縫ひ、襠以下は前後の身を縫ひ合せ、縫ひ代を前身の方へ折り伏せてまつり、裾口を折りて、まつり又は千鳥掛けになし、後切れの斜裁の方を後胯上に縫ひ付け、後切れの方へ折り伏せてまつり、前後の胯上の裁ち目を總べてテツプにて包み、襷をかけ、本返しに縫ひ、左脚を上にして、前身を二寸五分程重ね、假綴をなし置き、後の重なりを六寸許りとし、胴廻りの餘分は兩脇より後胯上にて縫ひ締め又は襷を取り、其れより、紐切れを接ぎ、紐丈の中央を前身の重なりの真中に合せて、之れを縫ひ付け、後ち、紐緒をなすなり。

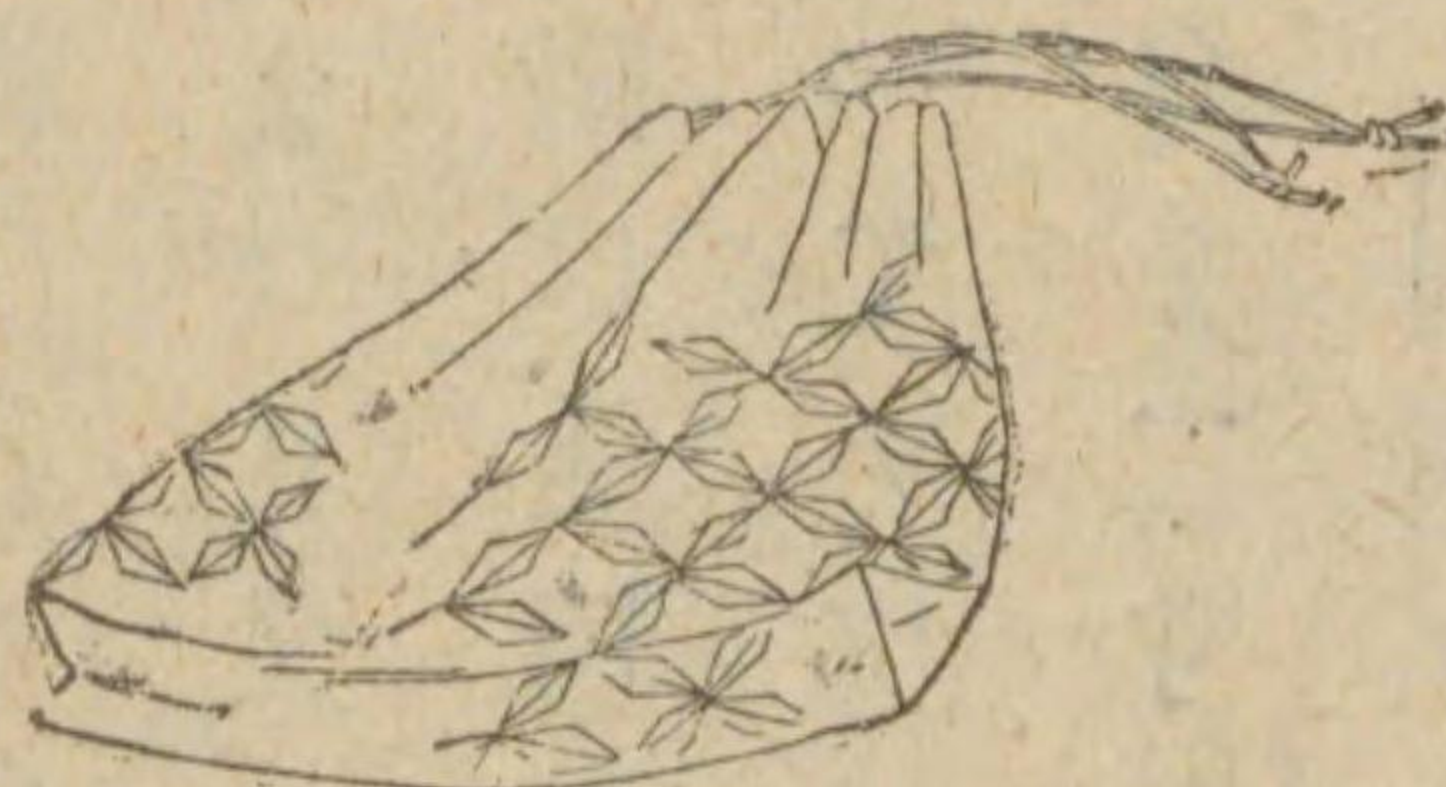
第二十三章 手提



第一 輕便手提

用布は表裏各幅六寸丈九寸五分とし、打紐は細太とも丈二尺五寸許りとす。

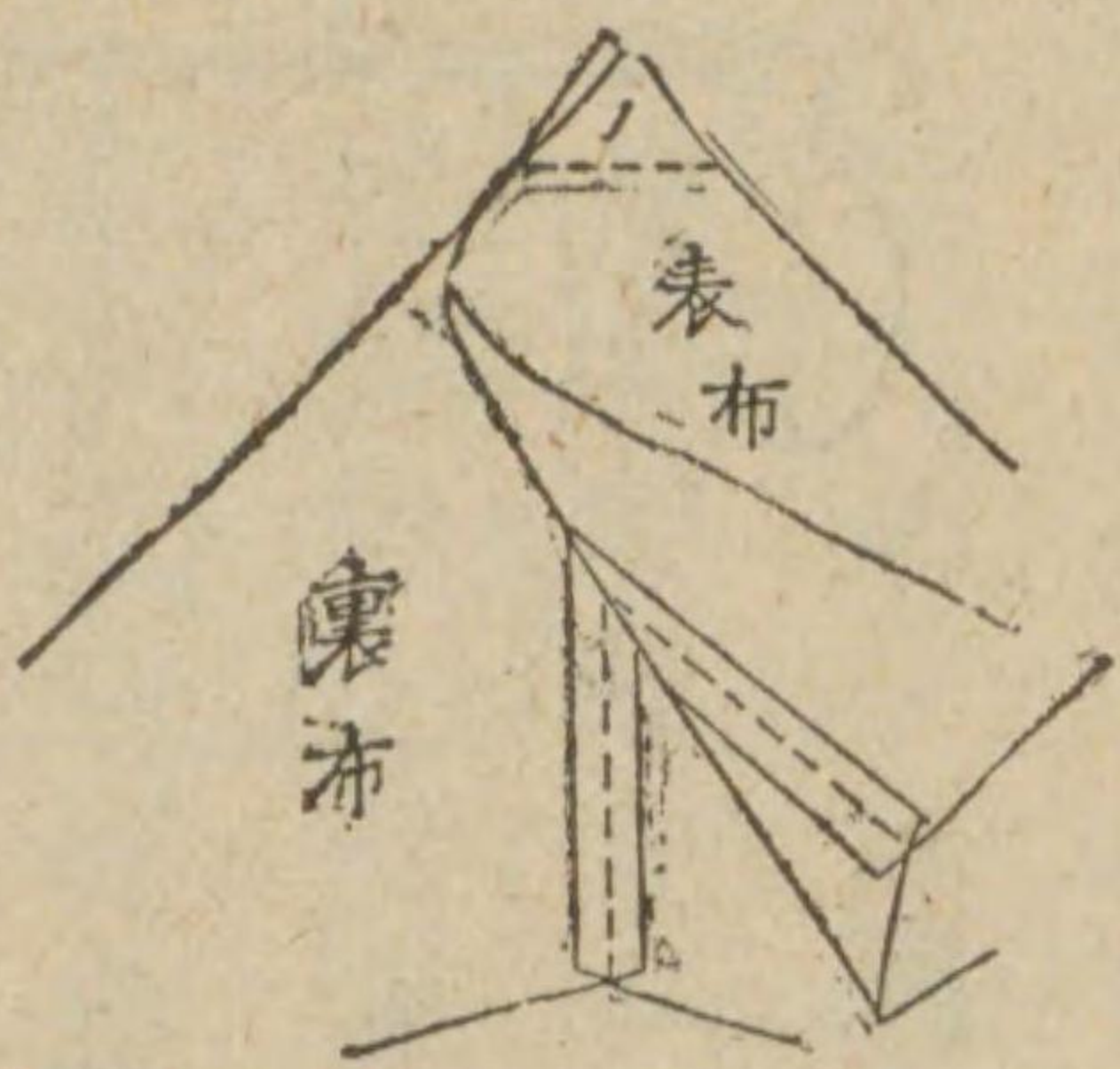
輕便手提の圖



表布を二つ折になし、二分の縫ひ代に兩脇を縫ひ、縫ひ目を割りてよく烙鏝を掛け、上部を二分に折り、次に裏布の兩脇を二分五厘の縫ひ代に縫ひ、縫ひ目を割り、上部を二分五厘に折り、左圖の如く底を合せ、幅一寸の所を表裏共に縫ひ合せ、縫ひ目を向ひ合せに折り、表を引き返し、口を拵け、口の兩側を十二等分して標を付け、細き打紐にて、先づ針を脇の縫ひ目より入れて裏へ出し、縫ひ目を跨ぎ、五厘許り離して裏より表へ

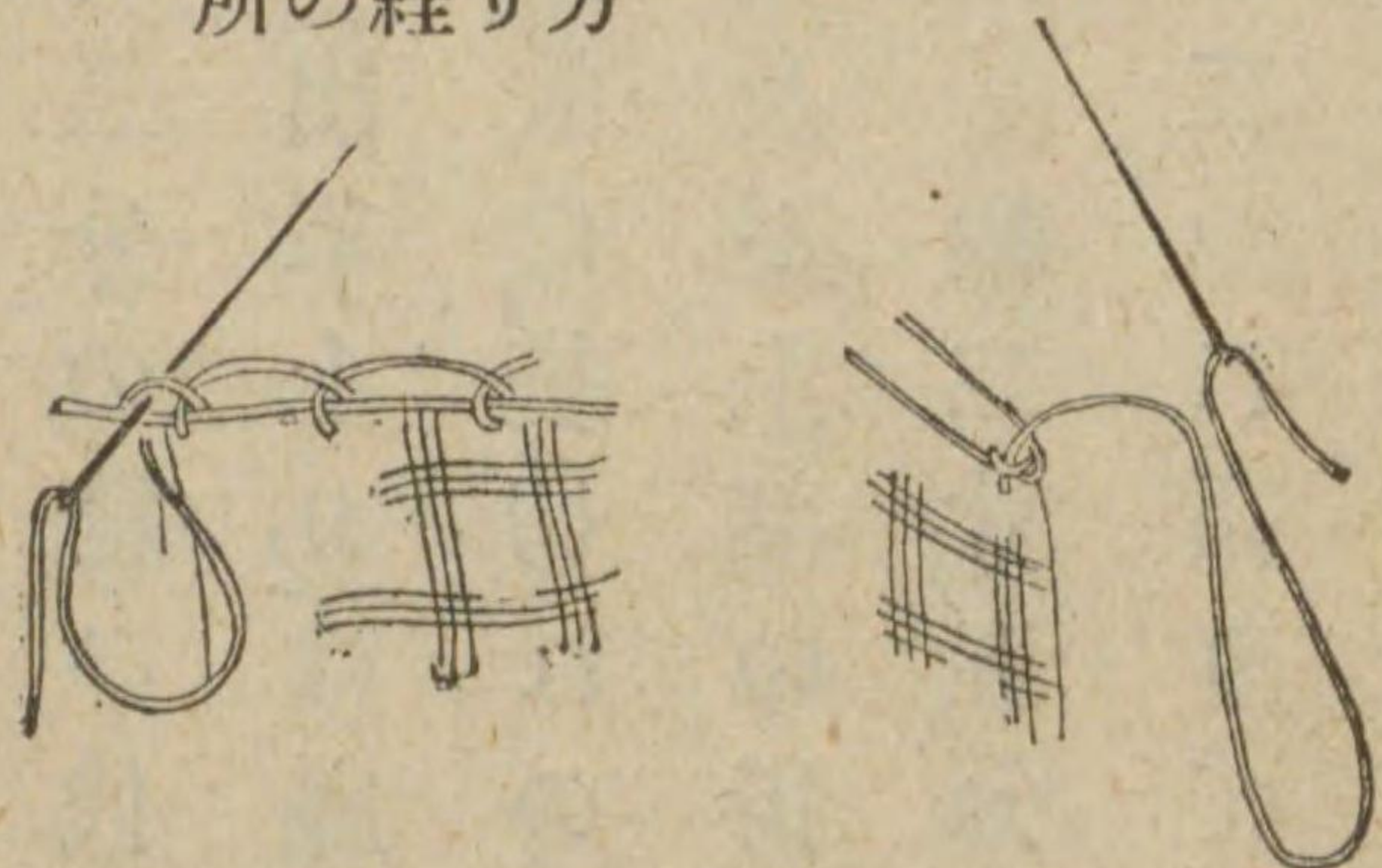
出し、其の絲を輪に通して引き締め、其れより、左圖の如く、縫ひ、太き打紐を交互に通し、先を結び置くなり。

底の合せ方

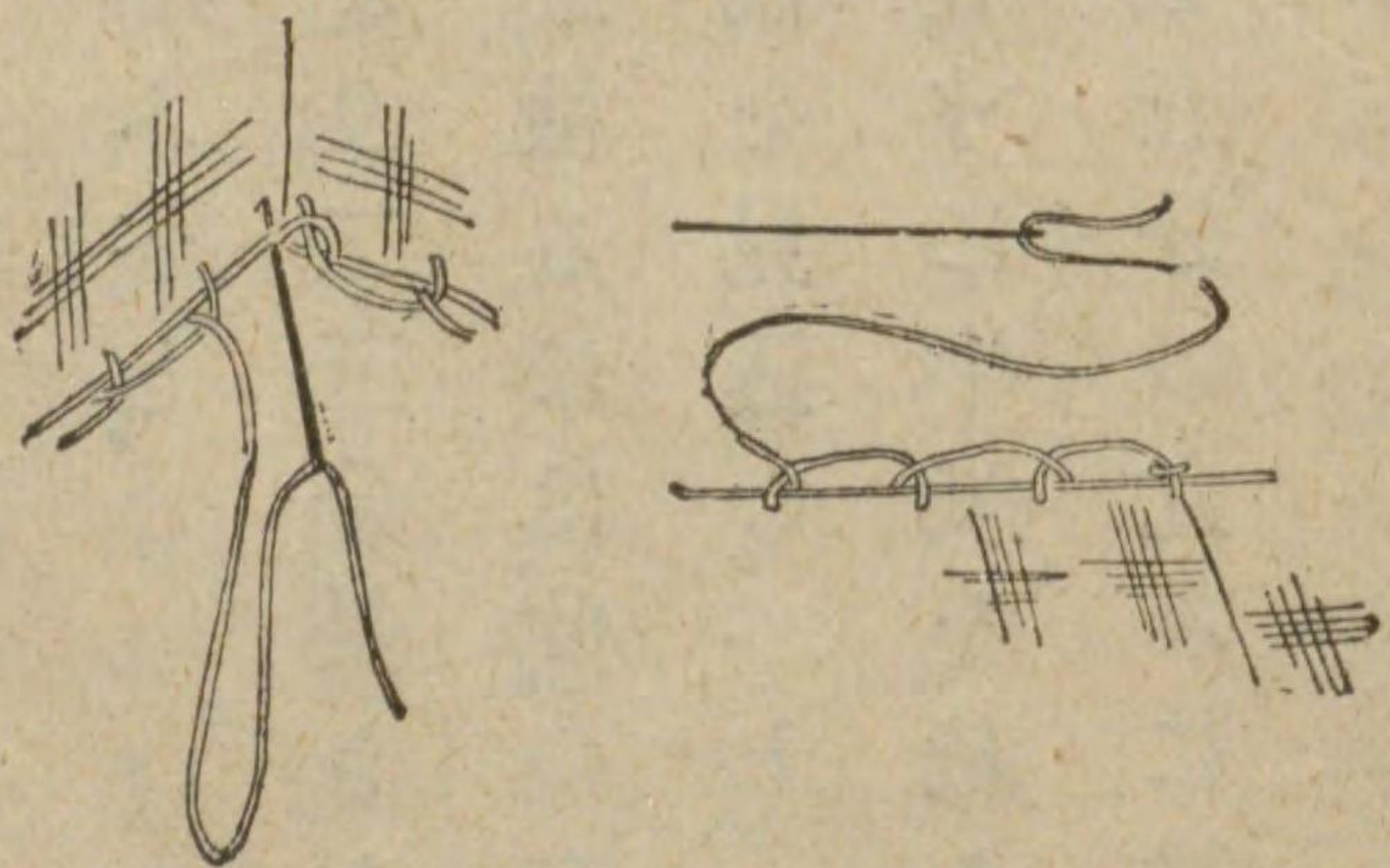


口の縫り方

第一 縫り始め 第三 中央縫ひ目の所の縫り方



第二 途中の縫り方 第四 縫り終り



第二 輕便底附手提

用布は表裏各幅七寸五分丈一尺五寸とし、打紐は細太とも三



尺許りとす。

積り方 袋切れの總幅を積るには、底の周圍を計り、弛みを、表布

は二分五厘裏布は一分五厘と見込み、之れに一分五厘づつ三分の縫ひ代を加ふべし。

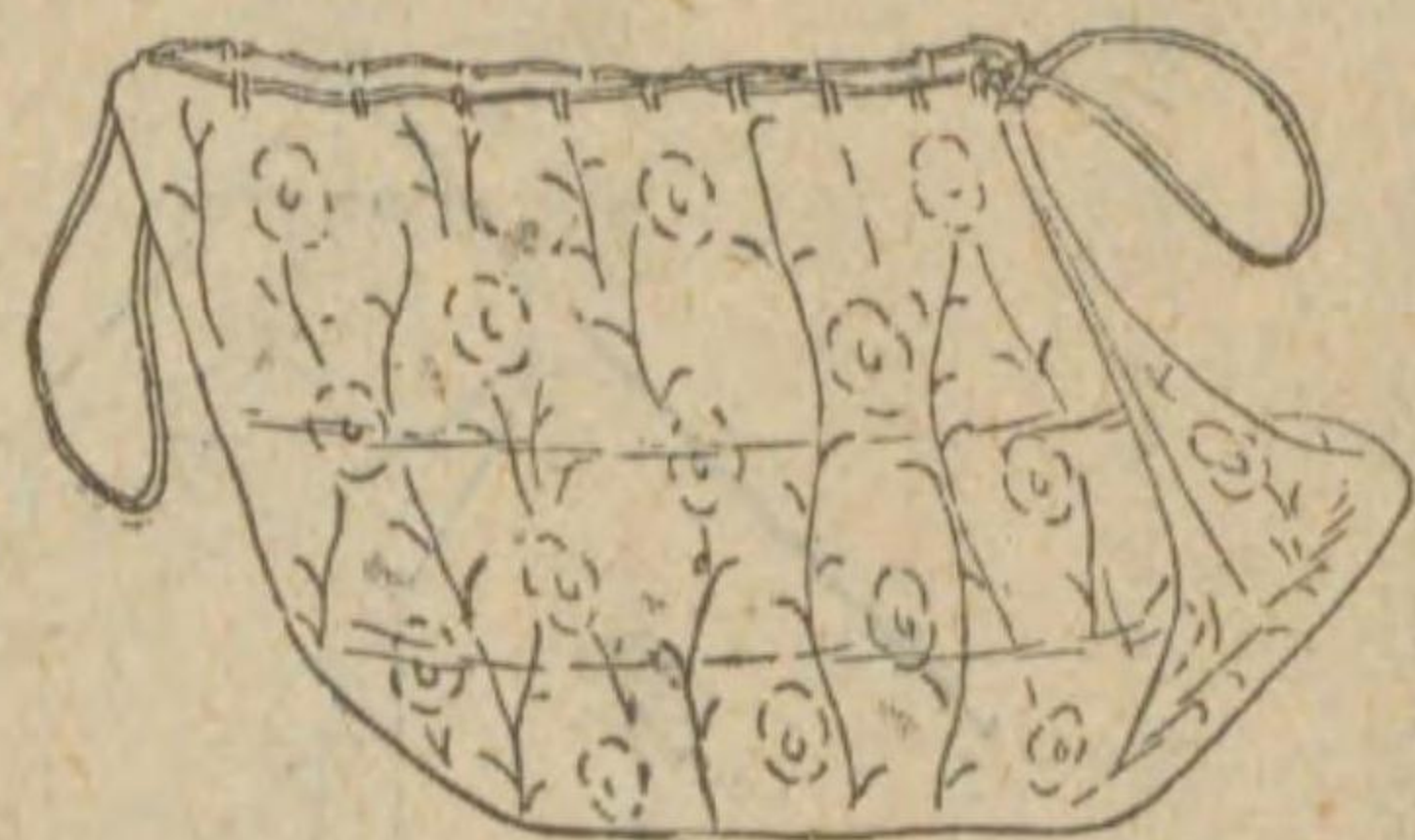
袋の高さ(出來上り)は底丈より二三分長きをよしとす。故に、袋切れの丈を積るには、此の高さに縫ひ代及び上部の折り代を見込むべし。

底の裁ち方 幅二寸五分丈五寸に半紙を裁ち、

幅を二つに折り、又次に丈を二つに折りて、角を五分の丸みに裁ち落とし、此の型紙に倣ひて、ボール紙を裁つなり。

底の貼り方 表裏共底型より五分通り大きく布を裁ち、底型のボール紙に、糊を平に引き、表布を手の平にて能く貼り、次に、裏布

圖の手提附底便輕



に糊をつけ、底型の上ののせて、貼り付け、底の厚みだけ裏布を押し下げ、能く烙鏝にておさへ、周圍を表布に貼り合せ、縫ひ代を二分残して裁ち切るなり、裏底型の上には表裏とも烙鏝を掛けず、自然に乾くを待つべし。

縫ひ方 表布の兩脇を一分五厘の縫ひ代に、返し針に縫ひ、縫ひ目を割り、烙鏝をかけ、上部を二分に折り、又裏布の兩脇を二分の縫ひ代に縫ひ、表布と同様縫ひ目を割りて烙鏝をかけ、上部を三分に折り置き、裏底の縫ひ代へ糊を引き、裏布の縫ひ目を底幅の中央に合せ、周圍を貼り附く。底の丸みの所つれかけんときは、裏布へ切り込みを入れて貼るべし。其れより表布を表底の廻りにあて、裏布を見て、底の際を返し針に附くるなり。附け終らば表を上に戻して口を締め、兩側を十二等分して、輕便手提の



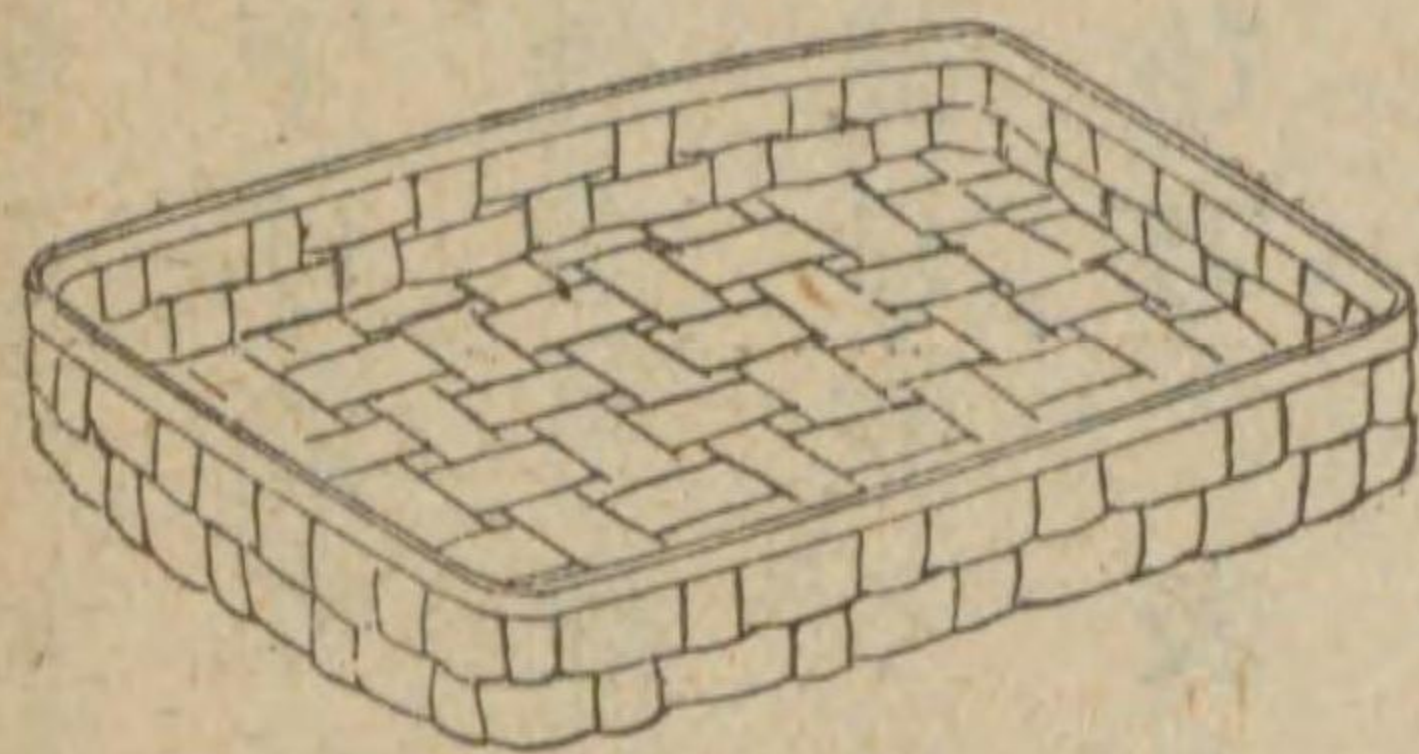
如く、細き打紐にて縫り、太き打紐を通すなり。

第三 籠千代田

籠千代田の圖



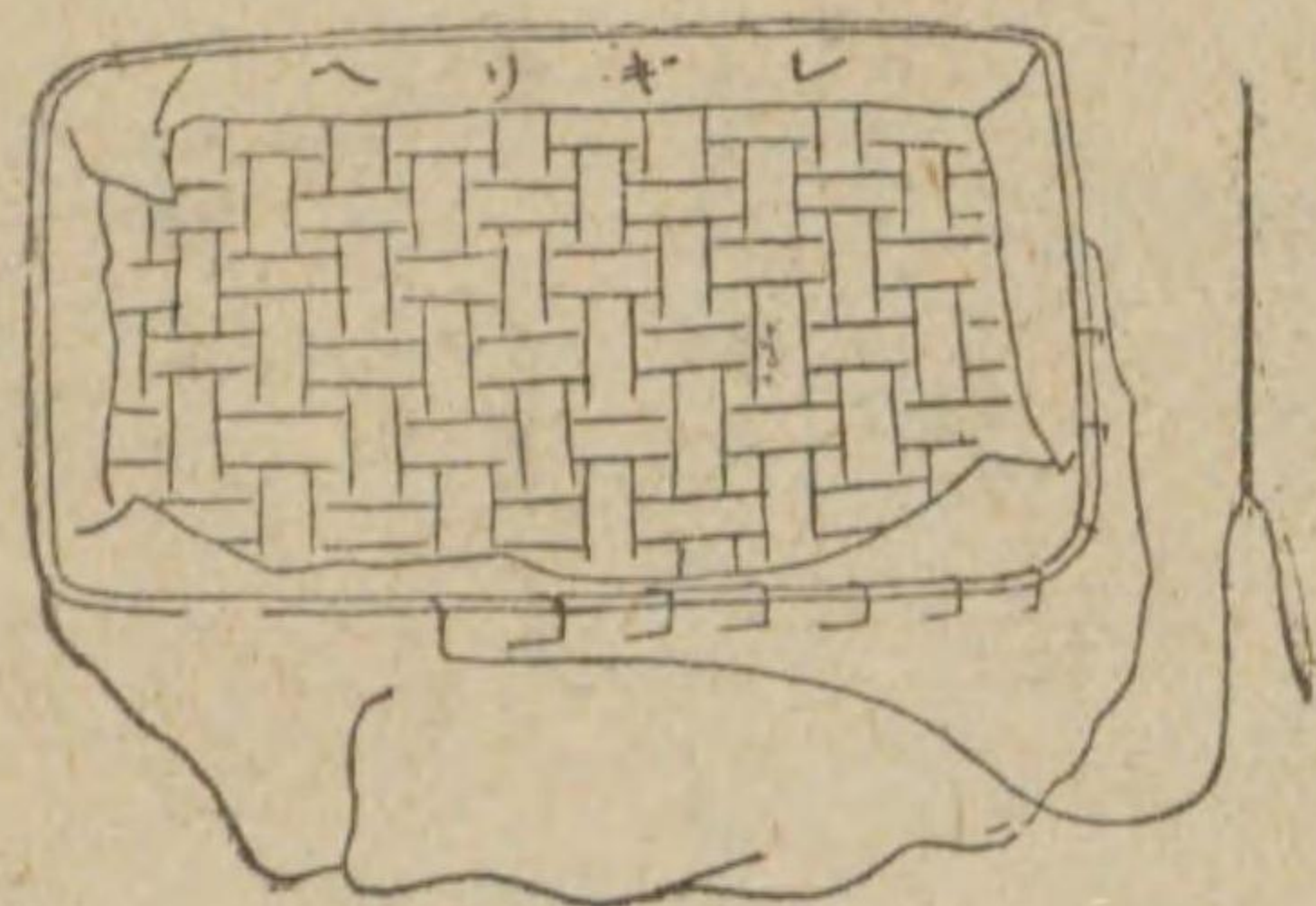
籠の圖



用布は表裏各幅八寸五分丈四寸八分二枚とし、別に縁切れとして幅八分丈二尺許りを要す。打紐は細太とも丈三尺三寸許りとす。積り方 籠の丈を布の丈とし、籠の周囲を計り、之れに縫ひ代を加へて、布の總幅を見積るべし。然る時は、出來上りの高さは、籠丈より二三分長くなるなり。但し、籠丈四寸以下の時は、籠丈と同寸に出來上るやう見積るべし。打紐の丈は細太ともに口廻りの二倍と見積るべし。

縫ひ方 先づ、表裏の口を合せて縫ひ、裏布の方へ折り、兩脇を二分の縫ひ代に、返し針に縫ひ、縫ひ目を割り、能く烙鏝を掛け、口の所は少しく裏布を控へて、躰を掛け、下部も躰にて能く表裏をおさへ、表布に合せて布の不同を切り揃へ、口の兩側を、輕便手提の如く、十二分して縫り置き、其れより、裏を出し、脇の縫ひ目を籠幅

袋の付け方



るをよしとす。

次に、縁切れを一ばいに折り返し、糊にて貼り附け、一針置き位に、籠縁の上に、絲を巻きつけ行くなり。角の所はつれぬやう緩めにあつ



け引き返して表を出し、太き打紐を口に通すなり。

### 裁縫新教科書 五卷終

大正七年八月十一日印刷  
 大正七年八月十四日發行  
 大正八年四月十五日訂正印刷  
 大正八年四月十八日再版發行

著者

共立女子職業學校 櫻友會裁縫研究部

發行者

東京市銀座一丁目廿二番地  
大日本圖書株式會社



印刷者

右代表者  
專務取締役 宮川保全  
東京市小石川區久堅町百八番地  
中西彦三郎

159  
2  
110

### 發行所

東京市京橋區銀座一丁目  
振替口座東京二二一九番

大日本圖書株式會社

裁縫新教科書 上卷  
 定價金六拾貳錢



159  
110



